

神戸大学大学院 人間発達環境学研究科

2017年11月6日

次第

開会の辞（外部評価実行委員長：小高直樹）

1. 研究科長挨拶（岡田修一）

2. 外部評価委員挨拶

杉万俊夫委員：九州産業大学教授

小川正賢委員：東京理科大学教授

3. 報告

組織（岡田修一 研究科長）

研究活動（青木茂樹副研究科長）

教育活動（加藤佳子自己評価委員長）

社会的活動（津田英二准教授，伊藤篤教授，伊藤俊樹准教授，
伊藤真之教授，近藤徳彦教授，渡邊隆信教授）

4. 質疑応答

5. 全体講評（外部評価委員）

6. 研究科長挨拶（岡田修一）

閉会の辞（外部評価実行委員長：小高直樹）

はじめに (概要と組織)

人間発達環境学研究科

2017年11月6日

I. 研究科専攻の改組

II. ミッションの再定義

I. 研究科専攻の改組

平成19(2007)年：
 人間発達環境学研究所置

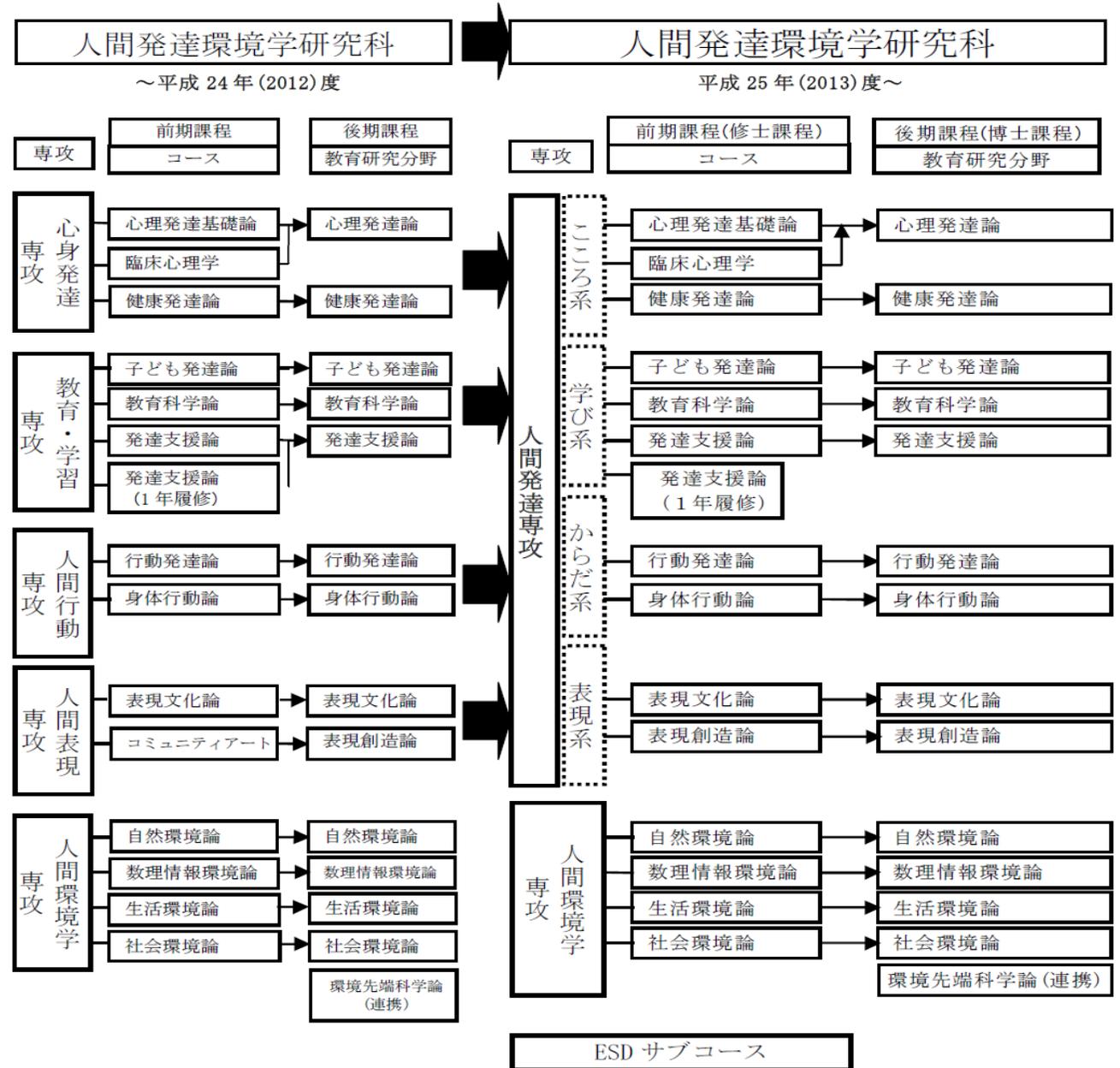
- ①心身発達専攻
- ②教育・学習専攻
- ③人間行動専攻
- ④人間表現専攻
- ⑤人間環境学専攻



平成25(2013)年：
 人間発達環境学研究所改組

- ①人間発達専攻
- ②人間環境学専攻

人間発達に関わる
 社会的諸課題の解決
 に向けて「人間それ
 自身の発達」に係る
 教育・研究のあり方
 をさらに高度化・総
 合化させる



Ⅱ. ミッションの再定義（平成26年4月） ：学際分野（発達科学分野）

[研究科の強み・特色]

- **教育**：人間の発達及びそれを支える環境に関わる基礎的並びに応用的・実践的な教育研究活動に主体的に参加し，これを推進する指導的役割を担える高度な専門的能力，独創性及び卓越性を発揮しうる研究能力を有する高度専門職業人・研究者を養成する。
- **研究**：人間の発達及びそれを取り巻く環境に係る学際分野における研究実績をいかし，アクティブ・エイジング支援，高度教員養成プログラム開発等に係る研究を推進している。
- 今後，**人間の発達及びそれを支える環境を多面的に捉えるため，異なる専門分野間の連携等の取り組みについて重点的に取り組むなど，総合的な研究を組織的に推進するとともに，我が国社会の課題解決・文化の発展に貢献することを目指す。**

神戸大学の取り組み

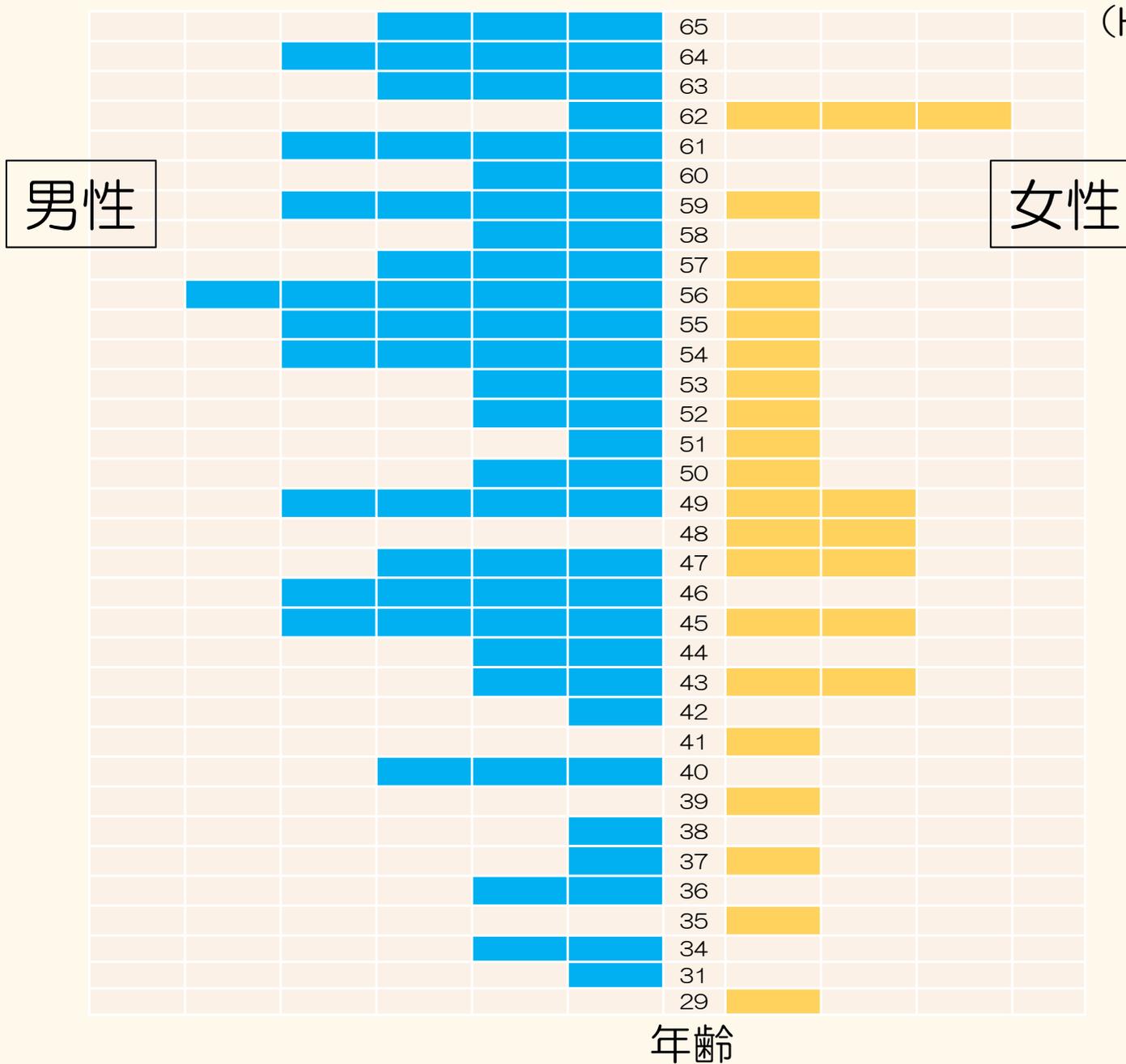
- 平成25年8月：研究大学強化促進事業に採択（22機関）
- 平成27年4月：神戸大学ビジョン「先端研究・文理融合
研究で輝く卓越研究大学」
『第3期中期目標・中期計画期間（H28年度～H33年度）
における神戸大学の機能強化改革』
- 平成27年6月：文科省「国立大学経営力戦略」
重点支援の枠組み「海外大学と伍して、全学的に卓越
した教育研究，社会実装を推進する取組を中核とする
国立大学」を選択（16大学）

- 平成28年10月：新たな教育組織・人事システムの導入
 - ① 教員の教育研究組織からの分離，教員組織の大括り化（すべての教員は学域に所属）
 - ② ポイント制の導入
 - ③ 学長裁量戦略枠の設定
 - 教員の流動性の向上，組織間の教員配置の最適化，柔軟な改組の実現，教員数及び若手ポストの増加
- 平成29年4月：ポイント制の導入

学域人事委員会：教員の採用及び昇任等並びにポイントの管理・運用及び教育組織への配置に関して，学域会議に発議する原案を審議する。

教員構成（年齢別・性別）

（H29.10.1 現在）



若手教員比率及び教員男女比率

若手教員比率

	(H29.10.1現在)				
	教授	准教授	講師	特命助教	合計
全年齢	46	48	3	4	101
40歳未満	0	8	1	4	13
若手比率	0.0%	16.7%	33.3%	100.0%	<u>12.9%</u>

教員男女比率

	(H29.10.1現在)									
	教授		准教授		講師		助教		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人数	38	8	35	13	1	2	2	2	76	25
合計	46		48		3		4		101	
女性教員比率	17.4%		27.1%		66.7%		50.0%		<u>24.8%</u>	

研究活動

人間発達環境学研究科

2017年11月6日

「ミッション再定義」

乳幼児期から高齢期に至るまでの人間の発達及びそれを支える環境を対象に、そのあり方を様々な側面から分析し検討する。

- 人間の発達を、一人ひとりの「善き生（well-being）」を実現するために個人や集団が潜在的にもつ多彩な能力を開花させていく過程と捉え、心理学や教育学をはじめ健康・スポーツ科学や芸術学等に幅広く蓄積された学問的知見及び方法を用いて捉える。
- 人間の発達を支える環境について、自然科学，数理情報科学，生活科学，社会科学の学問的知見及び方法を用いて分析・検討する。

環境の人間の発達との関わりを踏まえ、文理の枠を超えた実践的かつ総合的な視点の共有に積極的な姿勢を示す。

特筆すべき発達科学研究 (科学研究費助成金採択分)

分類	種類	研究課題名	年度
C	基盤研究(A)	生活史法による臨床物語論の構築と公共化	H24-28
C	基盤研究(A)	多世代共生型コミュニティの創成に資するアクティブ・エイジング支援プログラムの開発	H24-27
C	基盤研究(B)	位置計測技術を応用してフル・ボディ・インタラクションを実現した環境問題学習ゲーム	H23-25
C	基盤研究(B)	社会関係資本とキーコンピテンシーによる困難事例自己解決コミュニティ開発の方法	H24-28
C	挑戦的萌芽	超高齢化社会の進行とごみ分別行動の関係性評価	H28-30
C	挑戦的萌芽	日常的な歩行分析のための簡易なインソール型歩行無線計測システムの開発	H28-30
C	挑戦的萌芽	ジェンダー・エスニシティ・多世代共生に着目した震災復興と減災方策に関する研究	H26-28
C	挑戦的萌芽	高齢者の安心と若者の未来を支える異世代間交流プログラムの開発	H26-28
C	挑戦的萌芽	テーマ型コミュニティ創成による切れ目のない支援の実践と効果に関する研究	H24-25

分類	種類	研究課題名	年度
E	基盤研究(B)	超高齢社会における複数住宅所有の実態と役割	H28-30
E	基盤研究(B)	都市部高齢化地域における住民ネットワーク形成過程の実験的検討	H27-29
E	基盤研究(B)	3.11後の市民のリスク対応行動と認知の構造, その変動に関する研究	H27-29
E	基盤研究(B)	東日本大震災からの住宅復興に関する被災者実態変化の追跡調査研究	H25-28
E	基盤研究(B)	市民のリスク認知とゼロリスク要求の構造と変化: 新たな合意形成手法の開発に向けて	H24-26
E	挑戦的萌芽	六甲山地における防災林機能を高めるエリアマネジメント	H28-29
E	挑戦的萌芽	生活の質を考慮した生態系サービスの評価方法に関する学際研究	H27-29
E	挑戦的萌芽	ポスト・クライシスの住宅供給システムに関する国際比較分析	H26-28

⇒ アクティブエイジング研究センター

その他の発達科学研究 (科学研究費助成金採択分)

分類	種類	研究課題名	年度	分類	種類	研究課題名	年度
C	基盤研究(A)	幼年期における科学的素養醸成のための科学コミュニケーションに関する学際的研究	H28-31	E	基盤研究(A)	気球搭載型エマルジョンガンマ線望遠鏡による宇宙線加速天体の精密観測	H26-28
C	基盤研究(B)	学習科学を応用したイノベーティブな教育の理論と方法に関する国際調査研究	H28-30	E	基盤研究(A)	科学的素養醸成のコミュニケーション・メディアとしての科学絵本教育モデルの開発	H24-27
C	基盤研究(B)	アジアの後発開発途上国における学校保健モデル事業のインパクト評価	H28-31	E	基盤研究(B)	里山植生遷移ゲームと野外体験を統合した環境学習プログラムの開発	H28-30
C	基盤研究(B)	知識構築型アーギュメンテーションの指導と評価を可能にする教師教育プログラムの開発	H27-29	E	基盤研究(B)	メガシティにおける生物多様性減少メカニズムー機能群多様性減少の影響評価	H28-30
C	基盤研究(B)	後期中等・高等教育における「無償教育の漸進的導入」の原理と具体策に係る総合的研究	H27-29	E	基盤研究(B)	機械的生殖隔離による種分化：交尾器形態分化の要因と帰結	H28-31
C	基盤研究(B)	子どもの知識構築を促進するラーニング・プログレッションズを応用した理科教師教育	H25-27	E	基盤研究(B)	トランス・サイエンス問題の解決能力を育成する知識共創型アーギュメンテーション教育	H26-28
C	基盤研究(B)	成長期における脂質代謝が骨量獲得および骨代謝に及ぼす影響：小中学生の縦断調査から	H24-27	E	基盤研究(B)	炭素固定酵素ルビスコの高機能化と活性化促進による光合成リミットブレイク	H26-28
C	基盤研究(B)	科学的言語能力育成のための知識構築型アーギュメンテーションの理論と指導法の確立	H24-26	E	基盤研究(B)	ライフスキル形成を基礎とする中学生用性教育プログラムの有効性に関する縦断研究	H22-26
C	基盤研究(B)	野球における選手の能力を最大限に生かす最適バットの選定に関する研究	H23-26	E	基盤研究(B)	欧州における科学技術系博士号取得者のキャリア形成を支援する事業マネジメントの研究	H24-26
C	基盤研究(B)	運動に関わる要因と精神性要因が運動時の体温調節中枢に及ぼす影響	H23-25	E	基盤研究(C)	市民科学活動との協働による在来・外来オオサンショウウオの環境DNA調査	H26-28

特徴的な研究活動の一例

読売新聞
YOMIURI ONLINE

環境DNAを使った生物調査の例

海	マアジ、クロダイ、カタクチイワシ
川・溪流	オオサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、アユ、ボラ
ため池	ブルーギル、オオクチバス、メダカ類

環境DNAを利用した生物調査のイメージ

生物が出した環境DNA

水採取
水の中にDNAが含まれている

DNAの特徴を機械で分析

調べたい生物のDNA情報

一致

生息していることが判明

環境DNAを用いた水界生物相の解析

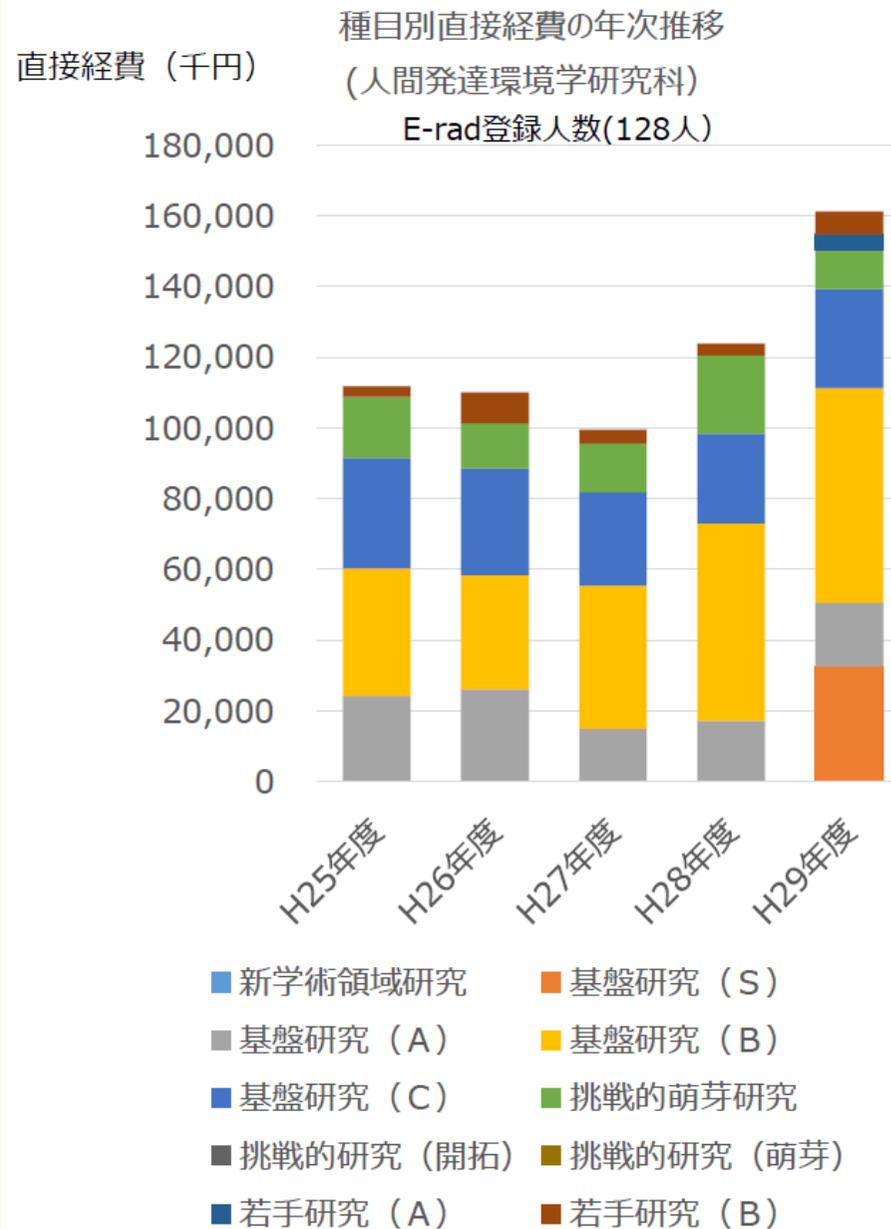
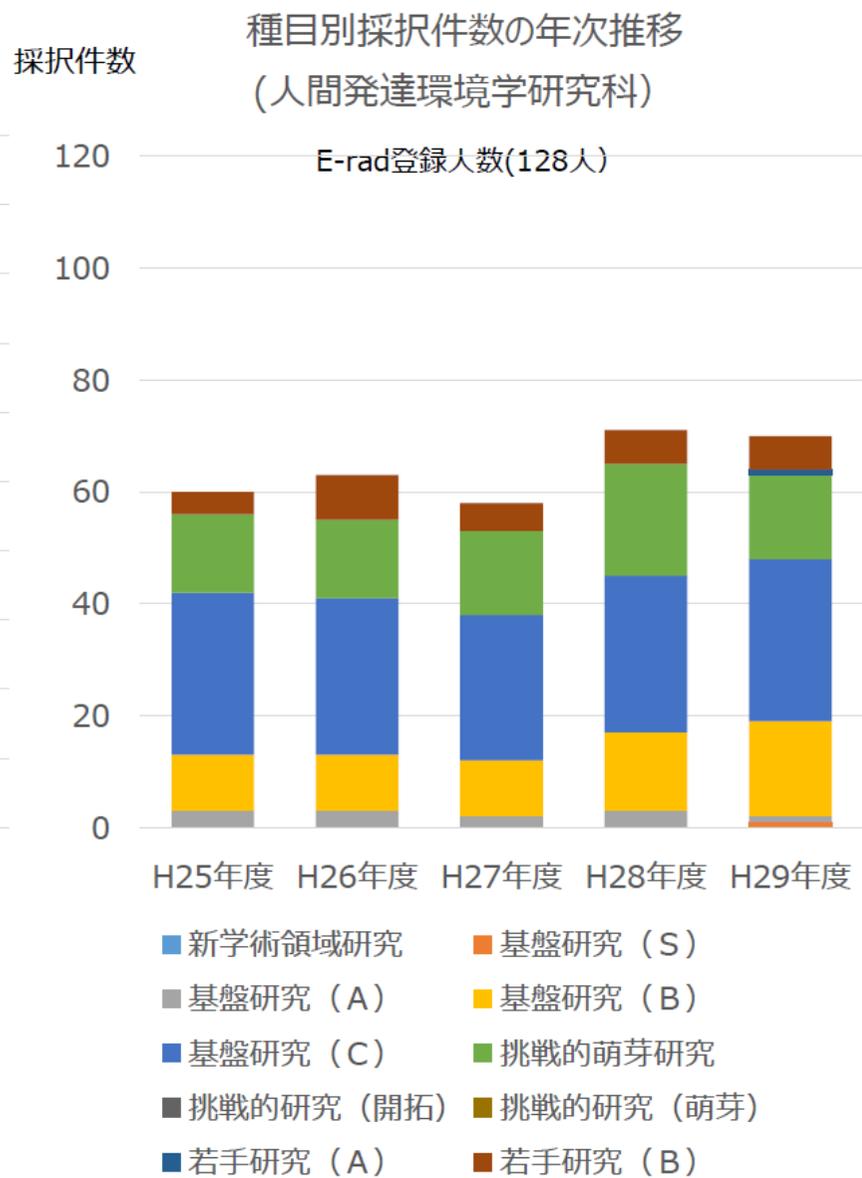
水を採ってくるだけで
そこに棲む生物の種類や数がわかる

- 捕獲や観察等が困難な生物も調査可能
- 希少種の生息域や生態の調査
- 人的開発や外来種などによる環境影響の評価

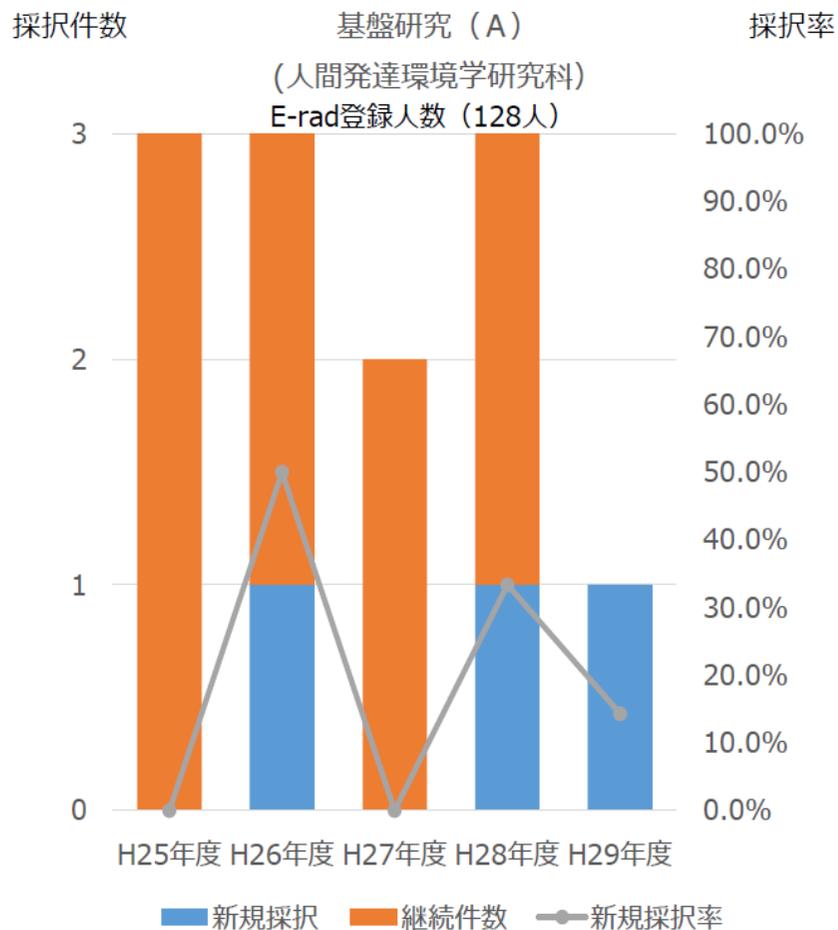
その他の発達科学研究 (科学研究費以外の公的助成を受けた研究)

分類	補助金等名	プログラム名等	年度
E	環境研究総合推進費 (環境省)	震災に伴う人工資本・自然資本ストックの損失と対策の評価	H26-28
C	神戸市地域子育て支援拠点事業 「ひろば型」	のびやかスペースあーち実施事業	H24-28
C	国立大学改革強化推進補助金	アクティブエイジング研究	H27-28
C	国立大学改革強化推進補助金	ヒューマン・コミュニティ形成研究	H27-28
E	環境研究総合推進費 (国立環境研究所)	都市廃棄物からの最も費用対効果の高い資源・エネルギー回収に関する研究	H26-28
	大学改革推進等補助金	大学教育再生加速プログラム (AP)	H27-28
E	大阪市イノベーション創出 支援補助金	オレフィン系熱可塑性エラストマー高分子材料の触感評価の体系化	H28
C	二国間交流事業 (学術振興会)	科学的言語能力育成のための知識構築型アーギュメンテーションの理論と 指導法の確立	H26
C E	女性研究者研究活動支援事業 (連携型)	レボリューション!女性教員養成神戸スタイル	H27-28
C	神戸市まちづくりチャレンジ 事業助成金	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト	H25-28
C	神戸市子どもの居場所づくり事業	子どもの居場所づくり補助金	H28

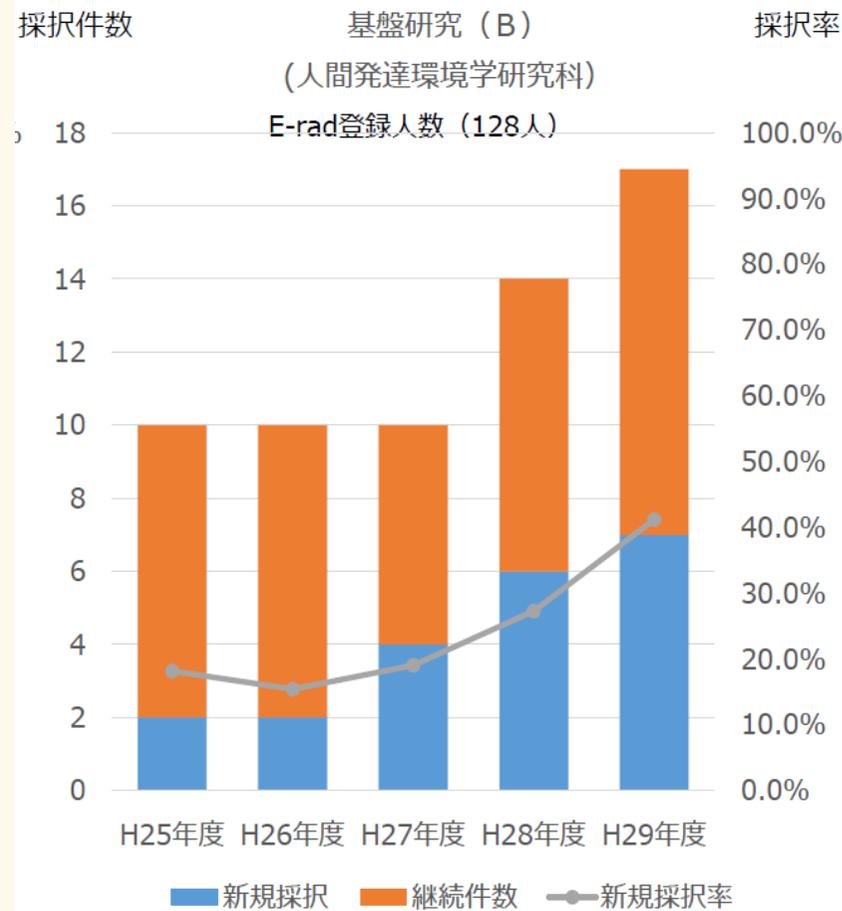
科学研究費の獲得状況



科学研究費の獲得状況



年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
新規申請件数	1	2	1	3	7
採択件数	新規	0	1	0	1
	継続	3	2	2	2
	合計	3	3	2	3
新規採択率	0.0%	50.0%	0.0%	33.3%	14.3%
内定額合計	直接経費 (千円)	24,100	26,000	14,800	17,100
					18,000



年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
新規申請件数	11	13	21	22	17
採択件数	新規	2	2	4	6
	継続	8	8	6	8
	合計	10	10	10	14
新規採択率	18.2%	15.4%	19.0%	27.3%	41.2%
内定額合計	直接経費 (千円)	36,200	32,300	40,600	55,800
					60,700

研究推進支援経費による研究

(研究科のミッションの実現に向けた研究の推進・発展)

年度	プロジェクト研究支援経費
H28	発達支援と心理臨床の有機的連環－発達支援インスティテュートにおける心理教育相談室の社会貢献の評価と展望
H28	大学における『アート・リソース』の活用に関する実践的研究
H28	ディープ・アクティブ・ラーニングの内容・方法・評価－「深い学び」を実現する教員養成・研修の開発
H28	保幼小連携教育のための高度教員養成・次世代型教員研修の一体的モデル開発に関する研究
H27	六甲山地における防災林機能を高めるエリアマネジメント
H27	3.11 の被災地域住民とそのコミュニティにおけるリスク認知およびリスク対応行動解析の新たな手法開発に関する学際的研究
H27	発達障害のある人に対するDimensional Approach Model の検討
H26	発達と学びの連続性を踏まえた幼少接続期の教育のあり方
H26	人間環境形成における生活安心指標の考案に向けた理論・実証研究
H26	都市と農村の文化・経済・生活からみた生態系サービスの評価・管理・保全に関する学際的教育－六甲山系の生態系と阪神間地域のフィールドワークとして－
H25	ESDの基盤としてのライフヒストリーによる心理・教育支援
H25	環境ストレスと疾病リストを客観的に評価するシステムの開発
H25	都市域における人と生物多様化のつながり
H25	生活安全指標Human Life Security Indexの考案：質の高い生活を実現する人間環境の総合的研究とその指標化
H25	持続可能な発展に向けた市民による科学理解の深化に向けた基礎研究－確率論的推論理解を中心にして－
H24	ESDの基盤としてのライフヒストリーによる心理・教育支援
H24	アクティブ・エイジングに根ざした多世代共生型コミュニティの創出
H24	専門領域複合型「こども教育専門職」育成プロジェクト

研究推進支援経費による研究

(研究科のミッションの実現に向けた研究の推進・発展)

年度	プロジェクト研究支援経費
H28	発達支援と心理臨床の有機的連環ー発達支援インスティテュートにおける心理教育相談室の社会貢献の評価と展望
H28	大学における『アート・リソース』の活用に関する実践的研究
H28	ディープ・アクティブ・ラーニングの内容・方法・評価ー「深い学び」を実現する教員養成・研修の開発
H28	保幼小連携教育のための高度教員養成・次世代型教員研修の一体的モデル開発に関する研究
H27	六甲山地における防災林機能を高めるエリアマネジメント
H27	3.11 の被災地域住民とそのコミュニティにおけるリスク認知およびリスク対応行動解析の新たな手法開発に関する学際的研究
H27	発達障害のある人に対するDimensional Approach Model の検討
H26	発達と学びの連続性を踏まえた幼少接続期の教育のあり方
H26	人間環境形成における生活安心指標の考案に向けた理論・実証研究
H26	都市と農村の文化・経済・生活からみた生態系サービスの評価・管理・保全に関する学際的教育ー六甲山系の生態系と阪神間地域のフィールドワークとしてー
H25	ESDの基盤としてのライフヒストリーによる心理・教育支援
H25	環境ストレスと疾病リストを客観的に評価するシステムの開発
H25	都市域における人と生物多様化のつながり
	科学研究費の獲得につながった例
H25	生活安全指標Human Life Security Indexの考案：質の高い生活を実現する人間環境の総合的研究とその指標化
H25	持続可能な発展に向けた市民による科学理解の深化に向けた基礎研究ー確率論的推論理解を中心にしてー
H24	ESDの基盤としてのライフヒストリーによる心理・教育支援
H24	アクティブ・エイジングに根ざした多世代共生型コミュニティの創出
H24	専門領域複合型「こども教育専門職」育成プロジェクト

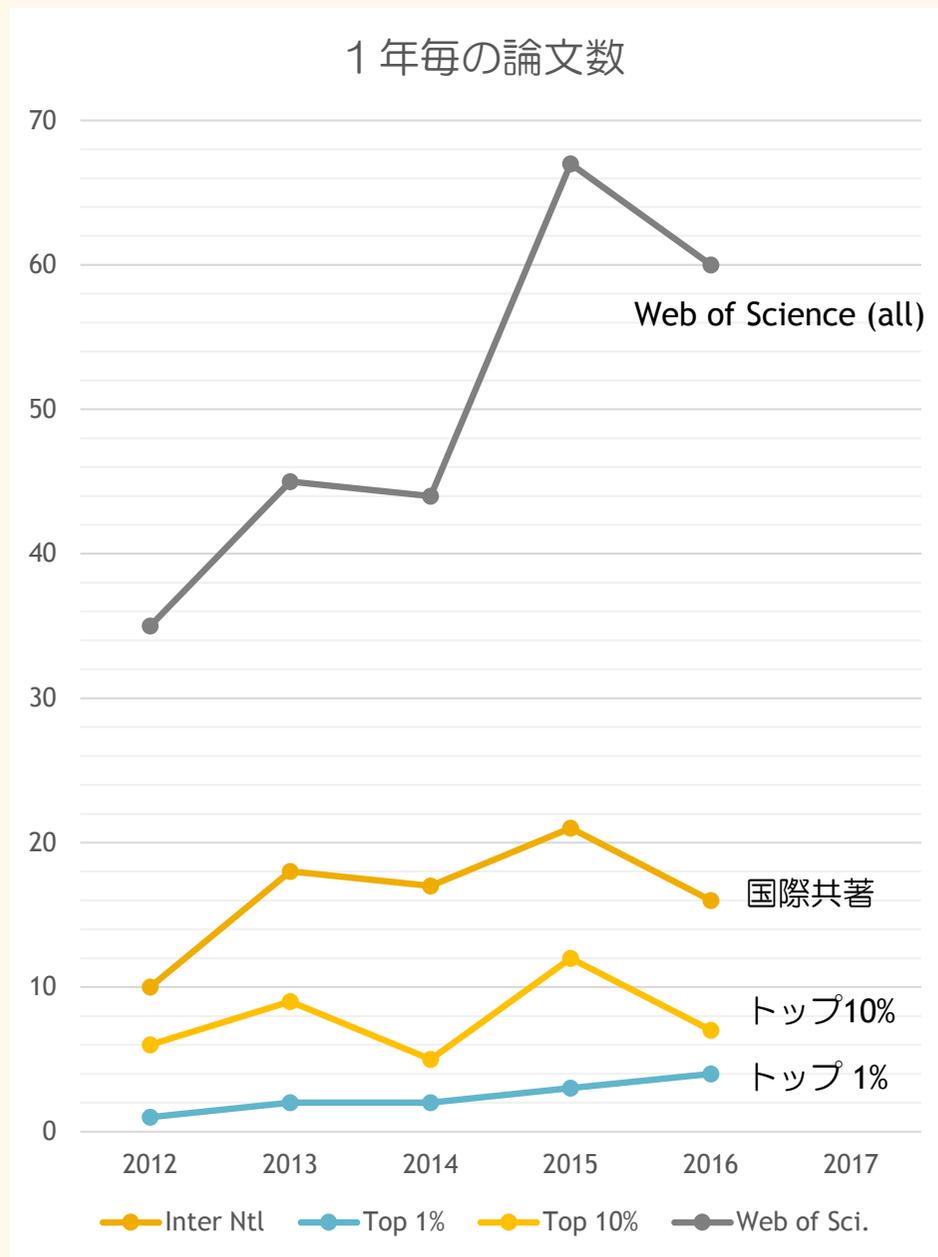
研究推進支援経費による研究

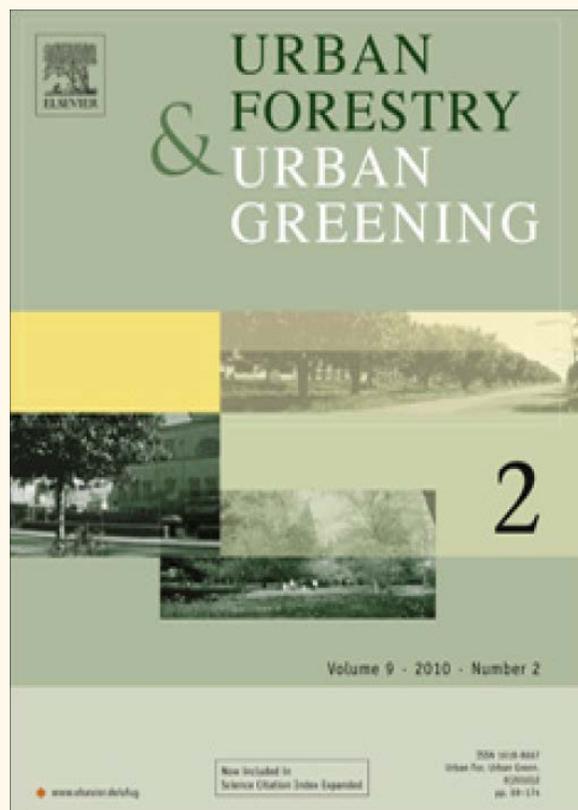
(研究科のミッションの実現に向けた研究の推進・発展)

年度		
H28	国際共同研究支援経費	科学教育のラーニング・プログレッションズに関する国際比較研究：アメリカ・レバノン・日本の小学生における生態系システムの知識の発達に焦点を当てて
H28	国際共同研究支援経費	Human and Natural Capital for Sustainable Development in Asia: Issues, Priorities and Solutions
H28	国際共同研究支援経費	健康生成機序の解明と心理臨床教育への応用に関する国際共同研究
H27	若手研究推進支援経費	地域高齢者を対象として健康教室における住民ネットワーク形成の促進とネットワーク可視化による客観的評価
H27	若手研究推進支援経費	初等教員養成教育におけるアクティブ・ラーニングの内容、方法、評価の調査
H26	研究推進支援経費	身体運動制御システム要素の自律的揺らぎがシステム出力の安定に与える影響の検討ーシステム論に基づいた運動補助器具・運動指導方法に向けてー
H26	研究推進支援経費	科学技術ガバナンスの主体となるための市民リテラシーに関する大学教育プログラム
H26	研究推進支援経費	21世紀の文理融合型大学教育におけるデータサイエンス基礎カリキュラムの試作
H26	研究推進支援経費	あんしんコールセンター24の安定運営に関する協同的实践研究
H25	研究推進支援経費	マスターズ甲子園2004ー2013プロジェクト実践による効果分析
H25	研究推進支援経費	東日本大震災による喪失経験が生き方や価値観の変化に及ぼす影響について
H24	研究推進支援経費	東日本大震災による喪失経験が生き方や価値観の変化に及ぼす影響について
H24	研究推進支援経費	教師の資質・能力向上に寄与する教師用指導書に関する研究
H24	研究推進支援経費	発達障害児・者に対する生涯発達支援システムの構築：幼小連携及び成人期支援に焦点を当てて

1年毎の論文数

Web of Science Paper (Article, Letter, Note, Review)						
	計	2012	2013	2014	2015	2016
国際共著論文	82	10	18	17	21	16
Top 1%	12	1	2	2	3	4
Top 10%	39	6	9	5	12	7
全 Web of Science	251	35	45	44	67	60
自然環境	132	16	28	26	29	33
生活環境	25	5	6	3	6	5
数理情報	9	2	1	3	3	0
社会環境	2	0	0	1	0	1
人間環境学専攻 計	168	23	35	33	38	39
からだ系	51	6	5	5	22	13
こころ系 (健)	22	6	4	3	4	5
こころ系 (心)	3	0	0	0	2	1
学び系 C	3	0	1	1	0	1
表現系	4	0	0	2	1	1
人間発達専攻 計	83	12	10	11	29	21





ACCEPTED MANUSCRIPT

Effect of Different Personal Histories on Valuation for Forest Ecosystem Services in Urban Areas: A Case Study of Mt. Rokko, Kobe, Japan

Masayuki Sato*

Graduate School of Human Development and Environment, Kobe University
3-11 Tsurukabuto, Nada-ku, Kobe, Hyogo 657-8501, Japan

E-mail: msat@port.kobe-u.ac.jp

Atushi Ushimaru

Graduate School of Human Development and Environment, Kobe University
3-11 Tsurukabuto, Nada-ku, Kobe, Hyogo 657-8501, Japan

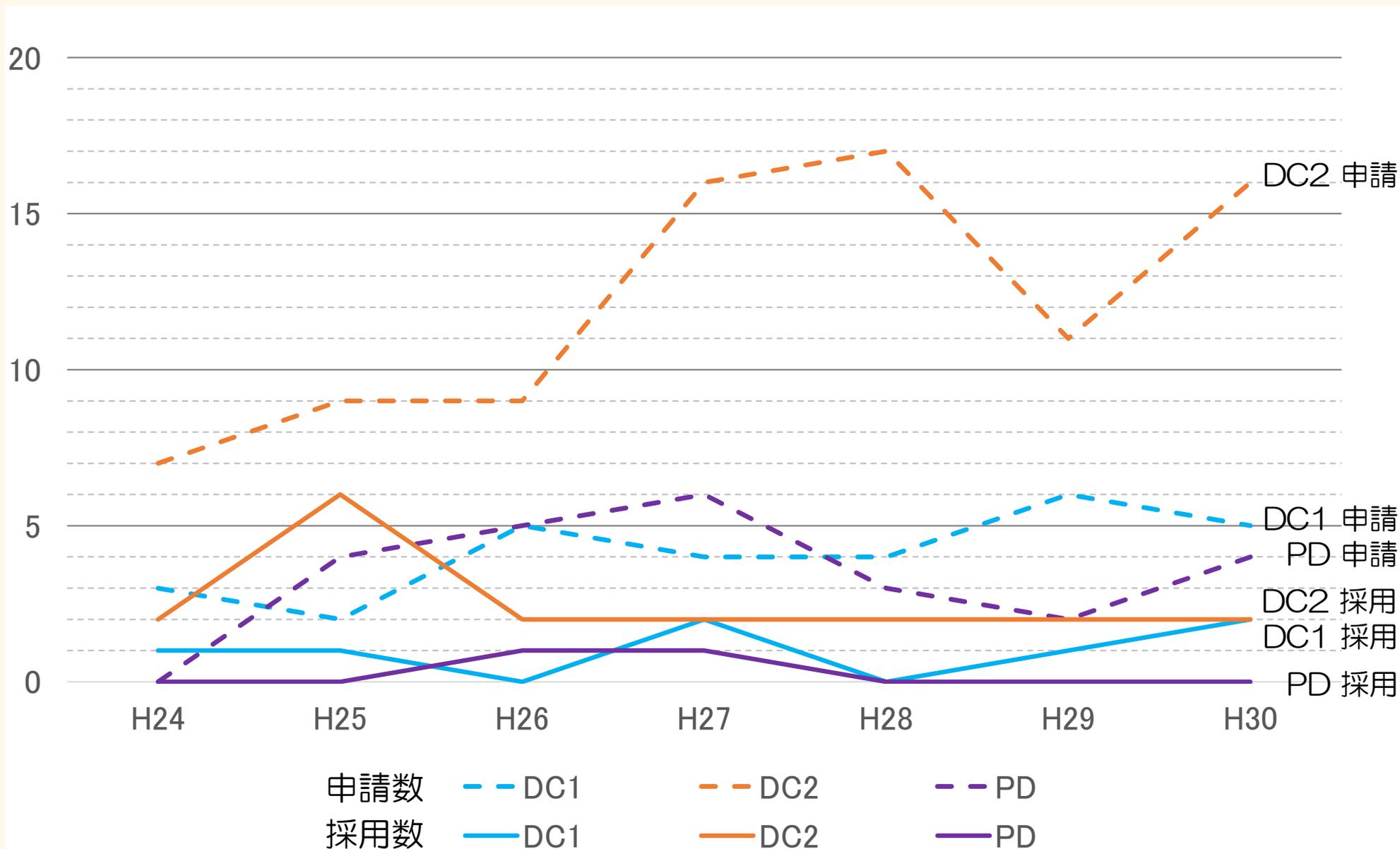
E-mail: ushimaru@kobe-u.ac.jp

Toshifumi Minamoto

Graduate School of Human Development and Environment, Kobe University
3-11 Tsurukabuto, Nada-ku, Kobe, Hyogo 657-8501, Japan

E-mail: minamoto@people.kobe-u.ac.jp

学振特別研究員の推移



「ミッション再定義」(再掲)

乳幼児期から高齢期に至るまでの人間の発達及びそれを支える環境を対象に、そのあり方を様々な側面から分析し検討する。

- 人間の発達を、一人ひとりの「善き生 (well-being)」を実現するために個人や集団が潜在的にもつ多彩な能力を開花させていく過程と捉え、心理学や教育学をはじめ健康・スポーツ科学や芸術学等に幅広く蓄積された学問的知見及び方法を用いて捉える。
- 人間の発達を支える環境について、自然科学，数理情報科学，生活科学，社会科学の学問的知見及び方法を用いて分析・検討する。

環境の人間の発達との関わりを踏まえ、文理の枠を超えた実践的かつ総合的な視点の共有に積極的な姿勢を示す。

教育活動

人間発達環境学研究科

2017年11月6日



神戸大学

発達科学部

Faculty of Human Development

神戸大学大学院

人間発達環境学研究科

G. S. of Human Development and Environment

DP, CPに即した 教育課程の編成

教育活動

人間の発達：一人ひとりの「善き生(well-being)」を実現するために個人や集団が潜在的に持つ多様な能力を開花させていく過程

多様性

こころ系、表現系、
からだ系、学び系

自然環境論、数理情報環境論、
生活環境論、社会環境論

実践性

心理臨床学コースと発達支援1年履修コース

先端研究

環境先端科学講座

学際分野

教育活動

人間の発達：一人ひとりの「善き生(well-being)」を実現するために個人や集団が潜在的に持つ多様な能力を開花させていく過程

多様性

こころ系、表現系、
かみ系、遊び系

総合性

自然環境論、数理情報環境論、
生活環境論、社会環境論

実践性

心理臨床学コースと発達支援
コース

実践性

環境先端科学講座

学際分野



カリキュラム ポリシー

人間の発達及び人間の発達を支える環境に関わる深い学識
実践的に解決できる
専門的学識と実践能力

総合的かつ高度な専門的学識

研究を自立して行う能力

あらたな研究課題や領域の開拓へと活かす創造的能力

共同研究や学際研究を企画・組織する能力

ディプロマ ポリシー

各研究分野に関連した高度な研究能力

多角的かつ重層的に課題を分析・考察し、体系的に概念化と理論化を行うことができる高度な知的能力

新しい課題を析出して行く資質・能力

高度な研究を遂行していくための基礎的な資質・能力

アドミッション ポリシー

現代的諸問題に柔軟に対応できる行動力



神戸大学

発達科学部

Faculty of Human Development

神戸大学大学院

人間発達環境学研究科

G. S. of Human Development and Environment

ミッションを遂行するための
多様な活動と取り組みの推進

総合的視点の涵養

自己報告書
p.27

専攻共通科目

(発達専攻人間)
人間の発達に関する

総合的かつ高度な
専門的学識の涵養

(人間環境学専攻)
人間の発達を支える

環境に関する
総合的かつ高度な
専門的学識の涵養

研究科共通科目

人間の発達及び人間の発達を支える環境に関わる
深い学識の涵養

研究科共通科目

人間の発達及び人間の発達を支える環境に関わる
深い学識の涵養

ヒューマンコミュニティ創成研究A,B

日本語・日本事情

ESD研究

ESD研究演習

特別研究

専攻共通科目

(発達専攻人間)

人間の発達に関する

総合的かつ高度な
専門的学識の涵養

(人間環境学専攻)

人間の発達を支える
環境に関する

総合的かつ高度な
専門的学識の涵養

人間発達総合研究
人間発達相関研究
人間発達研究

人間環境学相関研究

人間発達相関研究：授業の概要と計画

人間発達専攻の大学院生、教員が参加する
修士論文計画発表会を開催し(平成29年12月
8日(金)を予定)、修士論文計画について
ディスカッションを行う。また、学術
Weeksへ参加し研究の視点を広げること
を目指す。(シラバスより)

人間環境学相関研究：授業の概要と計画

1. ガイダンス＋小講義：なぜ学問分野は断絶するのか
2. 全体講義：研究倫理と研究のデザイン
3. 全体講義：大学院生のキャリア形成と文理融合
- 4.-8. プレゼンテーション・質疑応答・相互評価

(シラバスより)

人間発達総合研究



ホーム > インフォメーション > 主な予定

人間発達専攻 博士論文構想発表会 [2017年度]

開催について

日時

2017年7月14日(金) 10:00~終日

会場

[鶴甲第2キャンパス](#) 大会講室 (A棟2階)

主催

神戸大学大学院人間発達環境学研究所 人間発達専攻

プログラム

時間帯	内容
10:00~ 10:30	青年期における過去のいじめ体験における長期的影響の統合的検討
10:30~ 11:00	観察絵本ミクニノコドモに関する研究—アジア・太平洋戦争下における幼児向け絵雑誌の様相—
11:00~ 11:30	自己の高齢化意識が高齢者に対する態度に与える効果—自分の将来像としての高齢者に対する偏見—
11:30~ 12:30	昼食
12:30~ 13:00	気功による変容の現象学的記述
13:00~ 13:30	成人自閉症者の記憶機能の特徴の解明～記憶が果たす役割～
13:30~ 14:00	言葉を用いたダンス訓練の実態と解明—GAGAと舞踏譜を例として—
14:00~ 14:30	高等学校における地域協働型サービス・ラーニングの構造と課題—コーディネート機能のあり方に注目して
14:30~	
14:30	に注目して

後期課程

実践的解決能力の育成

自己報告書
p.27~34

アクションリサーチ型教育の実施

スタディツアー、フィールドワーク学習

研究道場の設置

アクティブ・エイジングに根ざした多世代共生型コミュニティの創成、ESDの基盤としてのライフヒストリーによる心理・教育支援、教育基礎研究道場

特別な履修コースの設置

臨床心理学コース
発達支援1年履修コース

学術ウィークスの実施

理論と実践
相互のフィード
バック

特別研究員の受け入れ

多様な研究課題は，本研究科の教育方針が機能していることを示している。



本研究科課程修了までに学生が獲得する能力の一つとして，「人間の発達、あるいは人間の発達を支える環境，に関する多様な研究分野を俯瞰し，あらたな研究課題や領域の開拓へと活かす創造的能力」とある。

全学共通教育への貢献

自己報告書
p.40

神戸大学では、学生の『人間と社会，人間と自然』に関する幅広い知識と深い洞察力を培い，これに基づいた創造力を涵養するとともに，知的教養人としての使命の自覚を促し，ますます複雑化していく社会の中で適正な批判力と判断力をもって行動しうる知性と能力及び豊かな人間性を育む

学際領域でのインターフェースとしての期待



本研究科の教員は全員，以下に示す教育部会のいずれかに所属して，全学共通授業科目教育を担っている。



神戸大学
発達科学部
Faculty of Human Development

神戸大学大学院
人間発達環境学研究科
G. S. of Human Development and Environment

修了生アンケート

方法

修了生アンケート
p.1

調査時期

平成29年5月~8月

分析対象者

152名（34.5 ± 10.4歳）

男性65名 女性87名

前期課程119名 後期課程33名

人間発達専攻100名 人間環境学専攻33名

調査手続き

平成20年度から平成28年度までの修了生854名
メールアドレスまたは住所が登録されていた496名
メールおよび郵送で質問票を配布した。
回収率：31.3% 有効回答率：98.1%

調査内容

研究科への評価

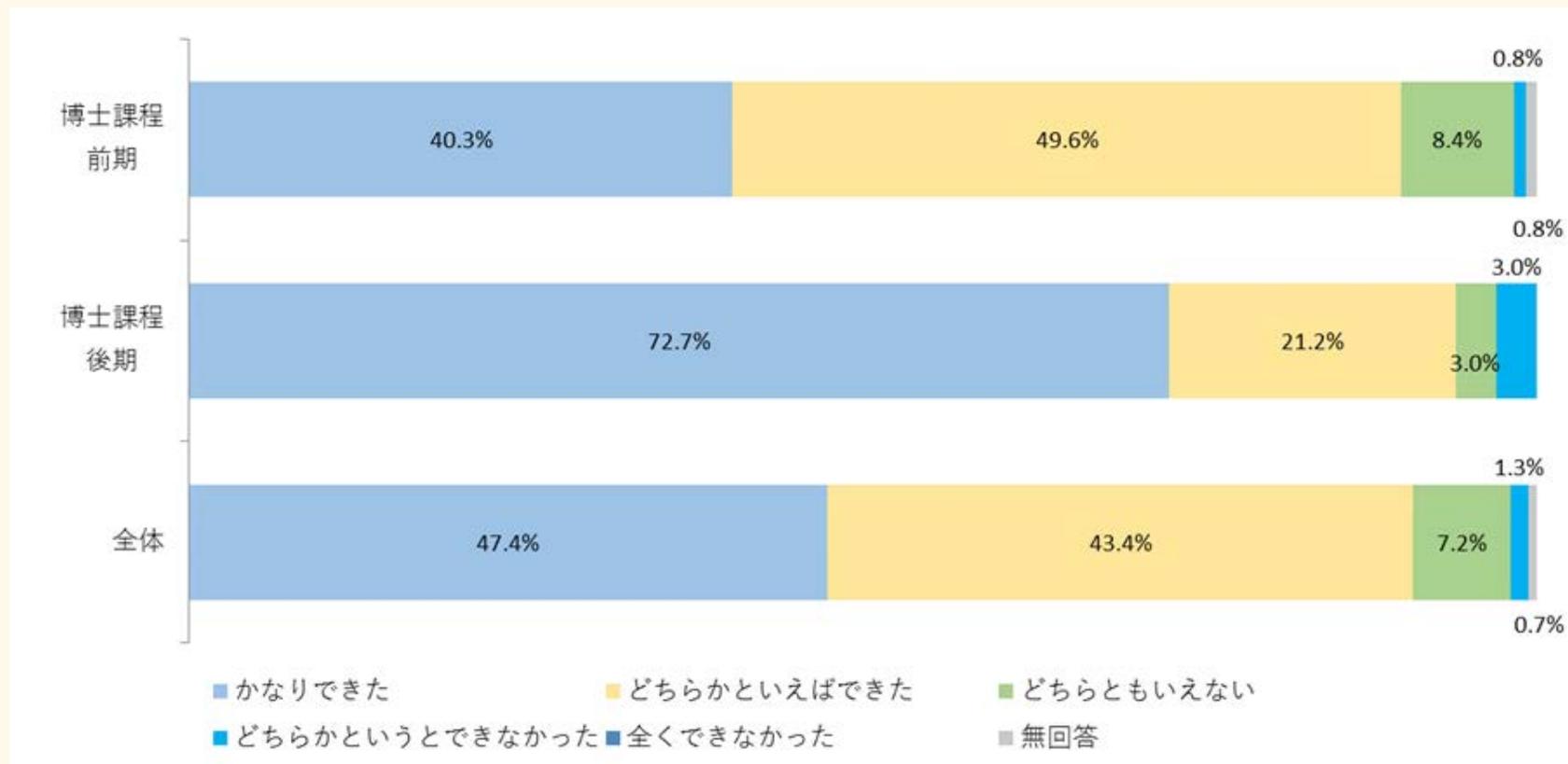
1. 授業や研究，課外活動等で知識，スキル，態度（価値観等）をどの程度身につけることができたか。
2. 授業や研究，課外活動等への満足：授業や研究，課外活動等はどの程度満足のいくものであったか。
3. 優れていると思われること
4. 授業や活動の中で，「印象にのこっている」「優れている」と思うもの，その理由
5. 神戸大学大学院人間発達環境学研究科に期待されること

研究科の人材育成

1. 研究科における活動を通じて得られた知識，スキル，態度（価値観等）が，現在（かつて）の仕事等に役立っている程度
2. 現在の仕事：現在の仕事について，「教育」「研究」「技術」など31のからキーワードを選択させた。

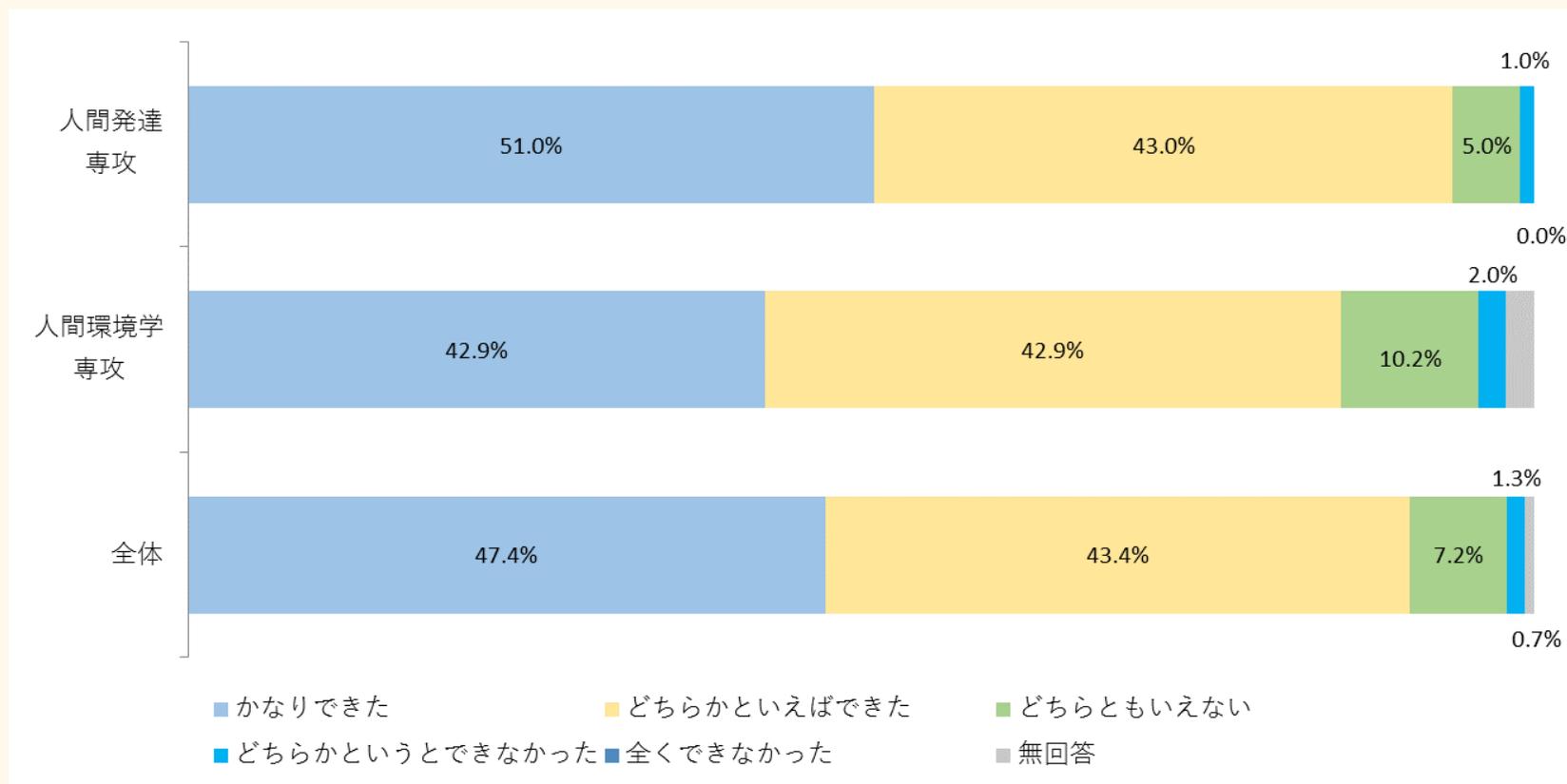
研究科への評価（修了課程別）

本研究科での授業や研究、課外活動等で、知識、スキル、態度（価値観等）をどの程度身につけることができたと思うか



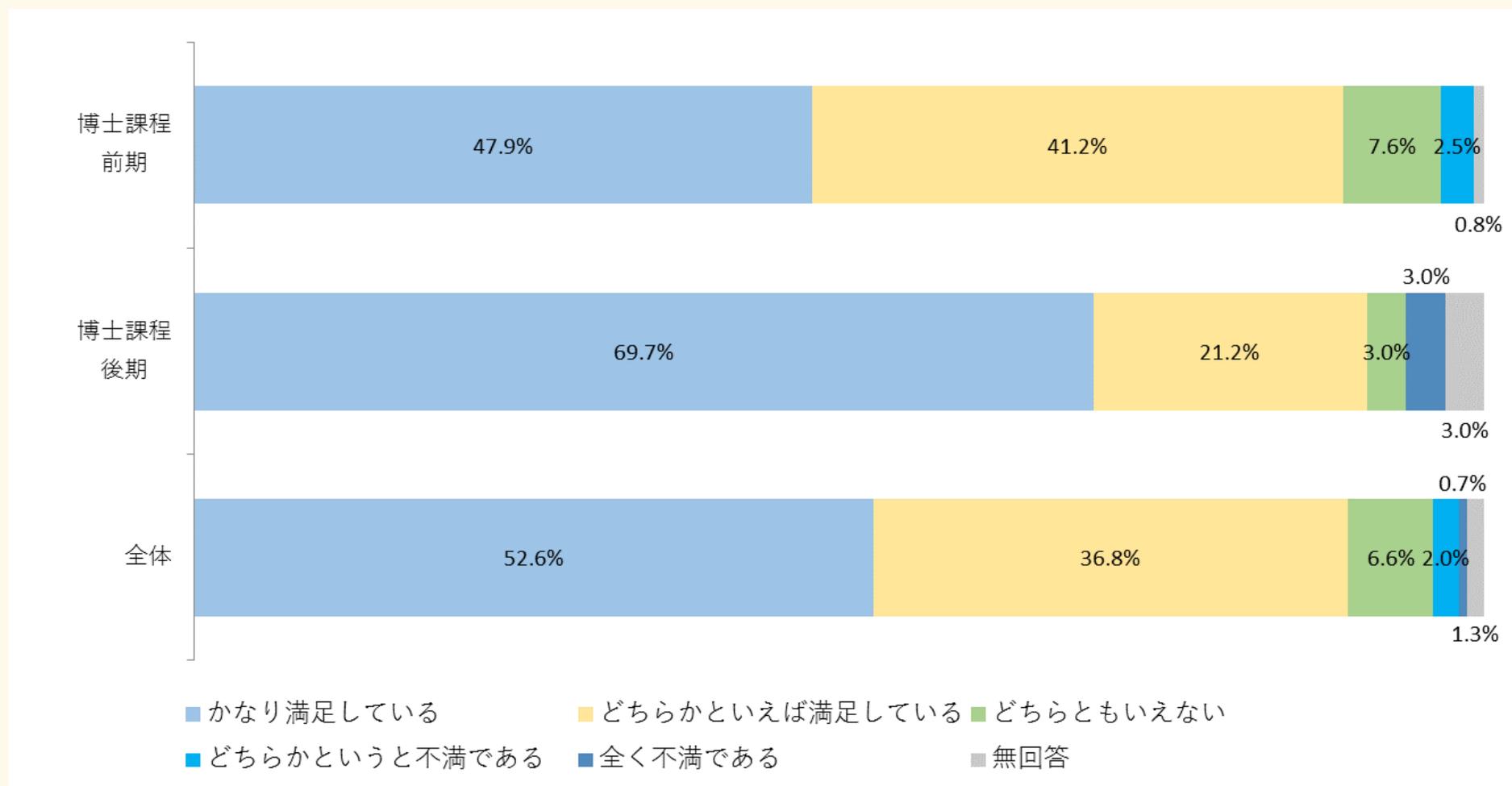
研究科への評価（専攻別）

本研究科での授業や研究、課外活動等で、知識、スキル、態度（価値観等）をどの程度身につけることができたと思うか



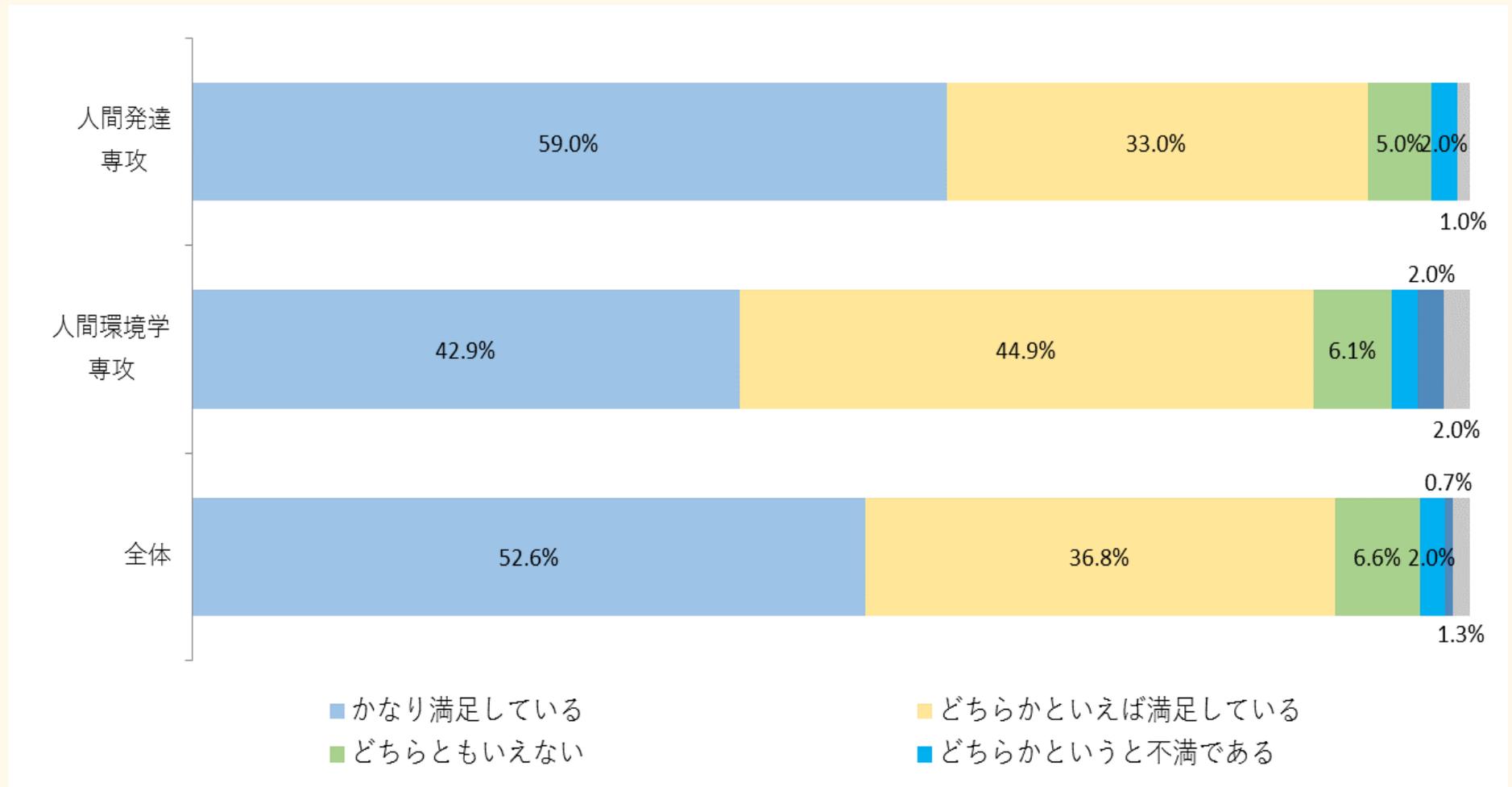
研究科への評価（修了課程別）

本研究科での授業や研究、課外活動等は満足のいくものであったか



研究科への評価（専攻別）

本研究科での授業や研究、課外活動等は満足のいくものであったか



「少人数・対話型の教育が充実している」

55.9% (85名)

「優れた教員が多い」 47.4% (72名)

「人間の発達と環境を学際的・総合的に捉え、分析するための学識を身につけることができる」 46.7% (71名)

「人間の発達と環境に関する研究を自立して行う能力を身につける」 36.8% (56名)

「フィールドワーク・実践・実験を重視している」
「分野を超えた研究交流を行う機会があり、学際的に学ぶ機会がある」 36.2% (55名)



「少人数・対話型の教育が充実している」

57.1% (68名)



「優れた教員が多い」 42.0% (50名)

「人間の発達と環境を学際的・総合的に捉え、分析するための学識を身につけることができる」 37.8% (45名)

「フィールドワーク・実践・実験を重視している」
37.8% (45名)

「分野を超えた研究交流を行う機会があり、学際的に学ぶ機会がある」 36.1% (55名)

「少人数・対話型の教育が充実している」

57.1% (68名)

学際性への評価

「優れた教員



「人間の発達と環境を学際的・総合的に捉え、分析するための学識」 37.8% (45名)

実践性への評価

「フィールド

37.8% (45名)

している」

「分野を超えた研究交流を行う機会があり、学際的に学ぶ機会がある」 36.1% (55名)

「優れた教員が多い」 63.6% (21名)

「人間の発達と環境を学際的・総合的に捉え、分析するための学識を身につけることができる」 57.6% (19名)

「分野を超えた研究交流を行う機会があり、学際的に学ぶ機会がある」

「少人数・対話型の教育が充実している」

42.4% (14名)



「人間の発達と環境に関する研究を自立して行う能力を身につける」 39.4% (13名)

「優れた教員が多い」 62.6% (20名)

学際性への評価

「人間の発達と環境に関する研究を深めるための学識を身につけるための学際性への評価」 57.6% (19名)

「分野を超えた学際的な研究を深めるための学識を身につけるための学際性への評価」 42.4% (14名)

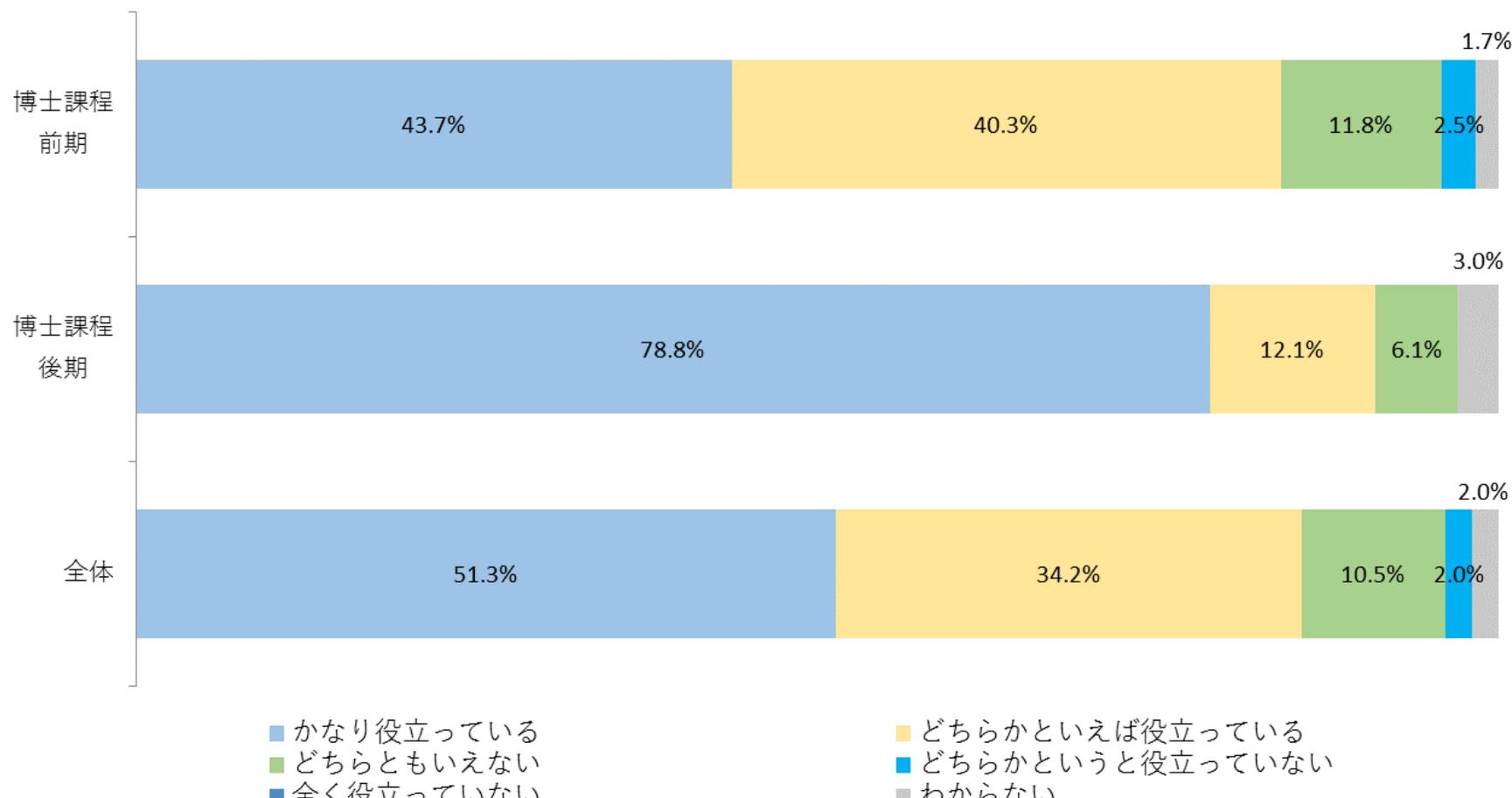
自立した研究者の育成

「人間の発達と環境に関する研究を自立して行う能力を身につける」 39.4% (13名)



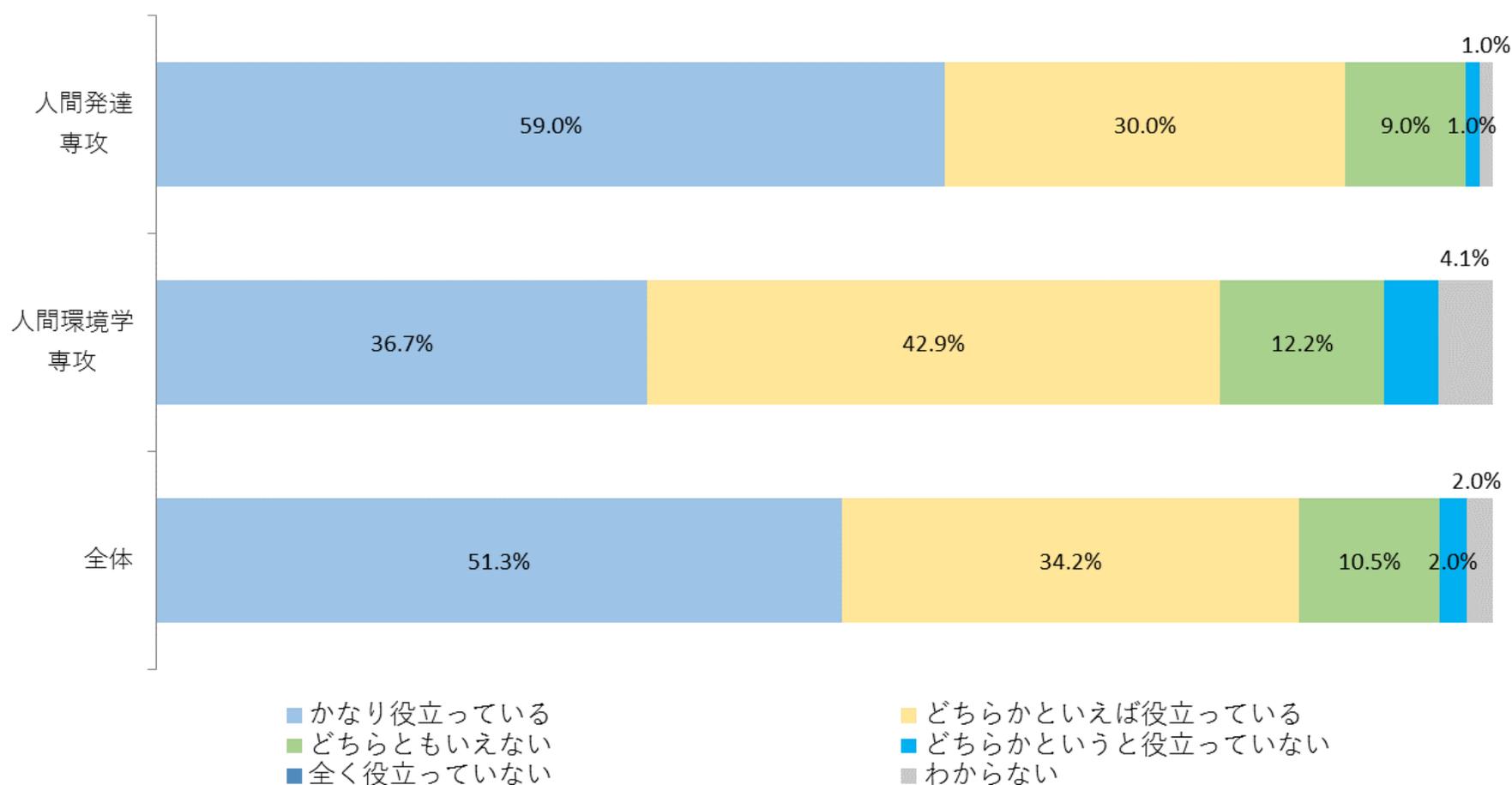
研究科の人材育成（修了課程別）

研究科における活動を通じて得られた知識、スキル、態度（価値観等）は、現在（かつて）の仕事等に役立っているか

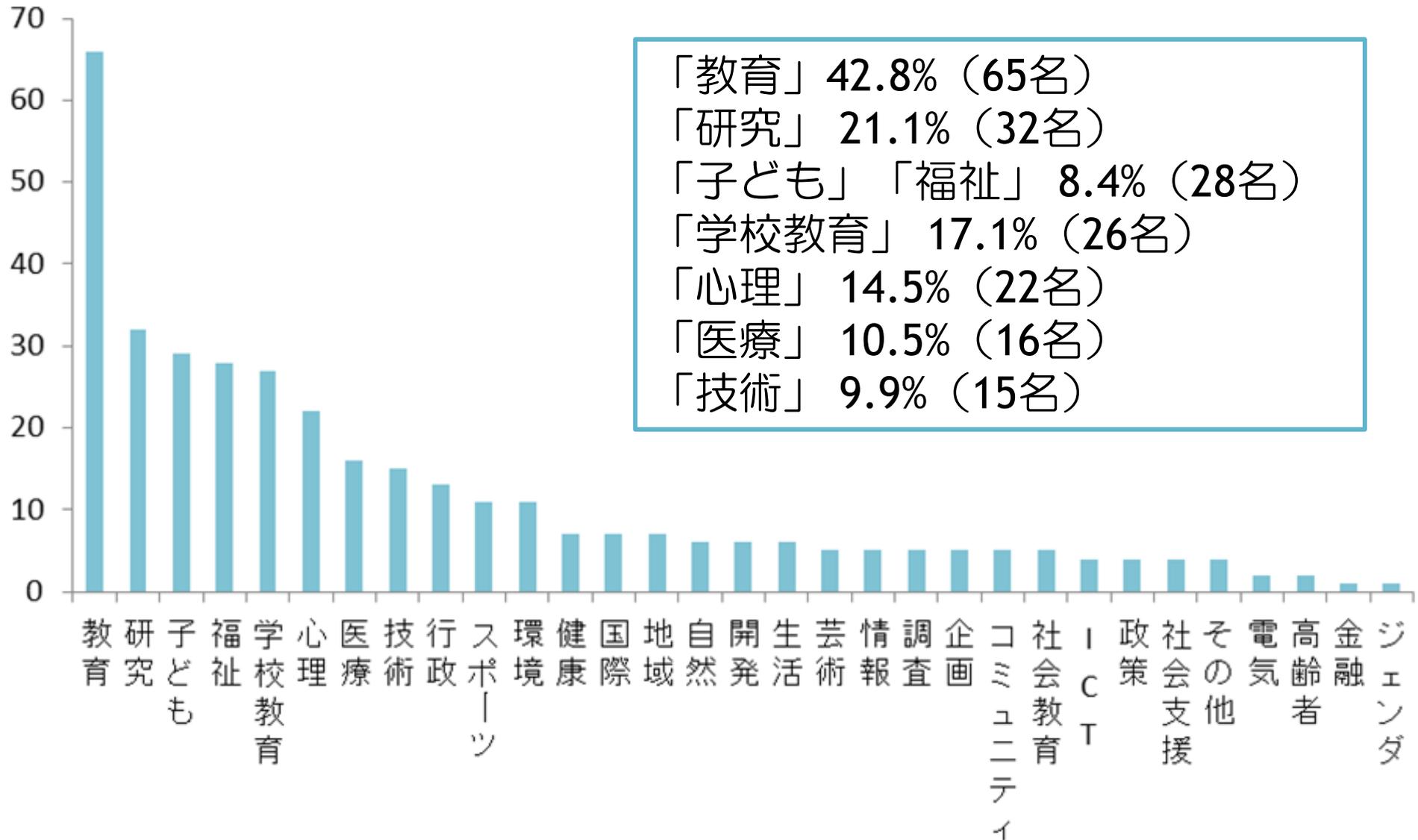


研究科の人材育成（専攻課程別）

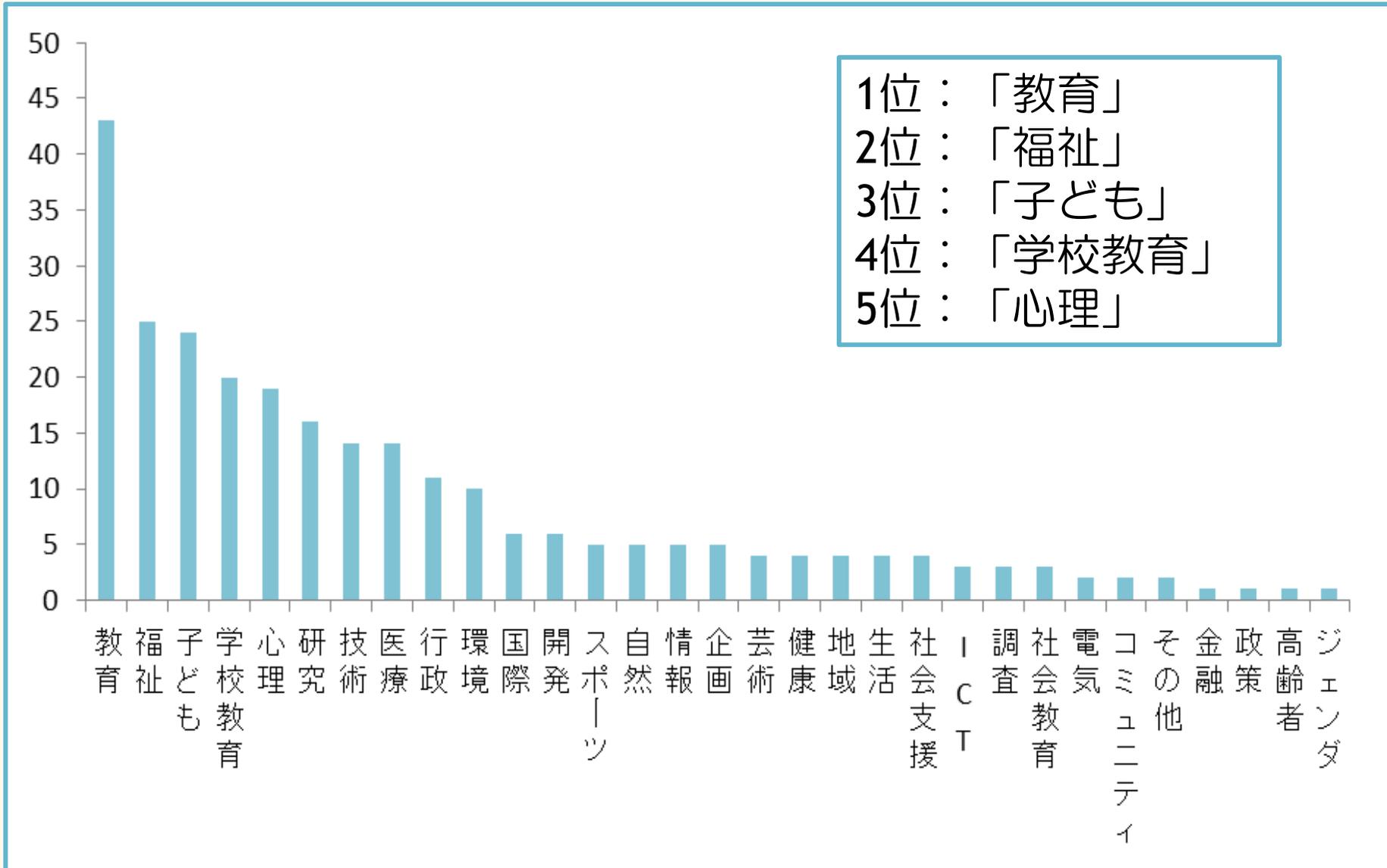
研究科における活動を通じて得られた知識、スキル、態度（価値観等）は、現在（かつて）の仕事等に役立っているか



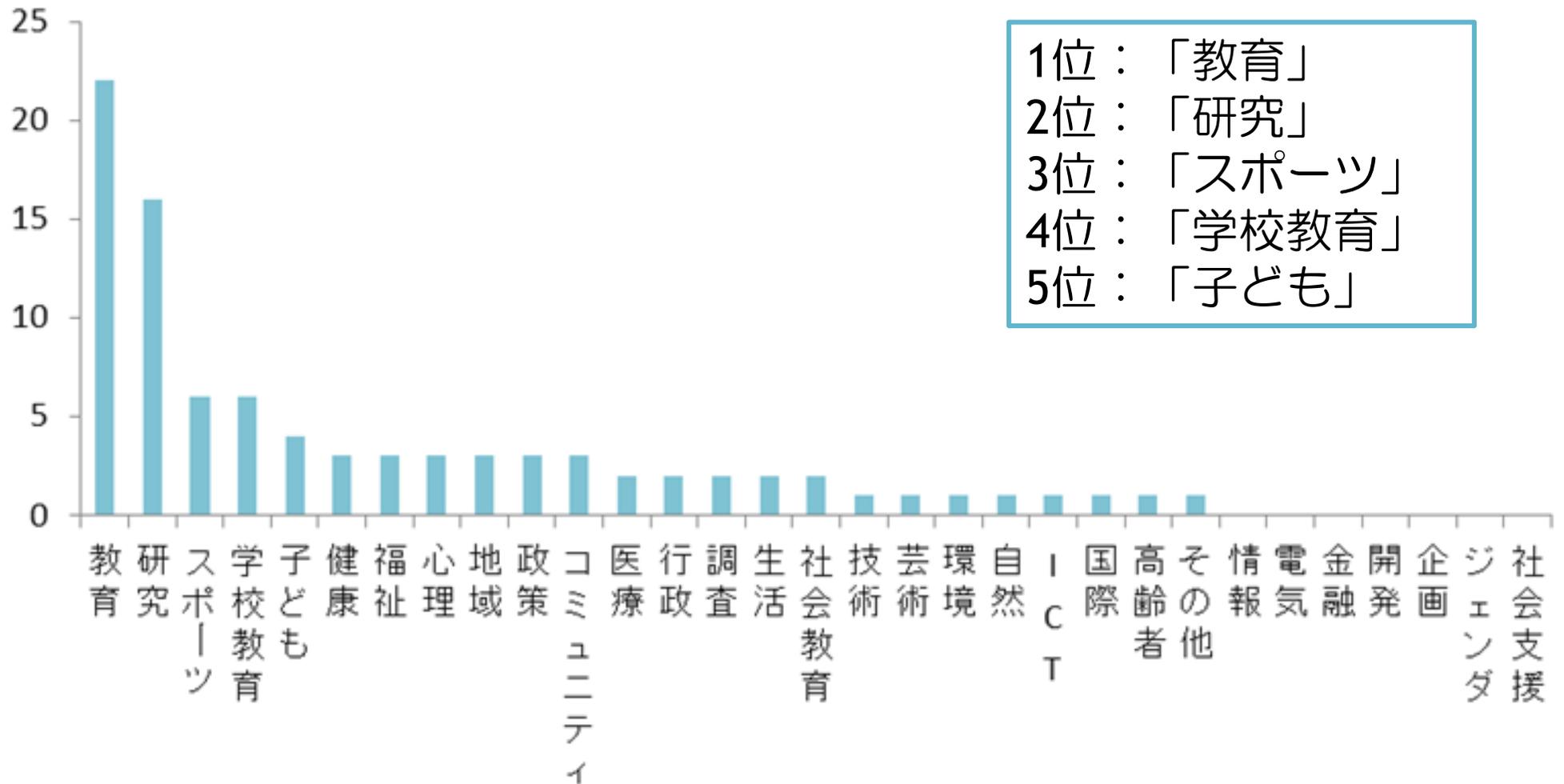
現在の仕事に関するキーワード



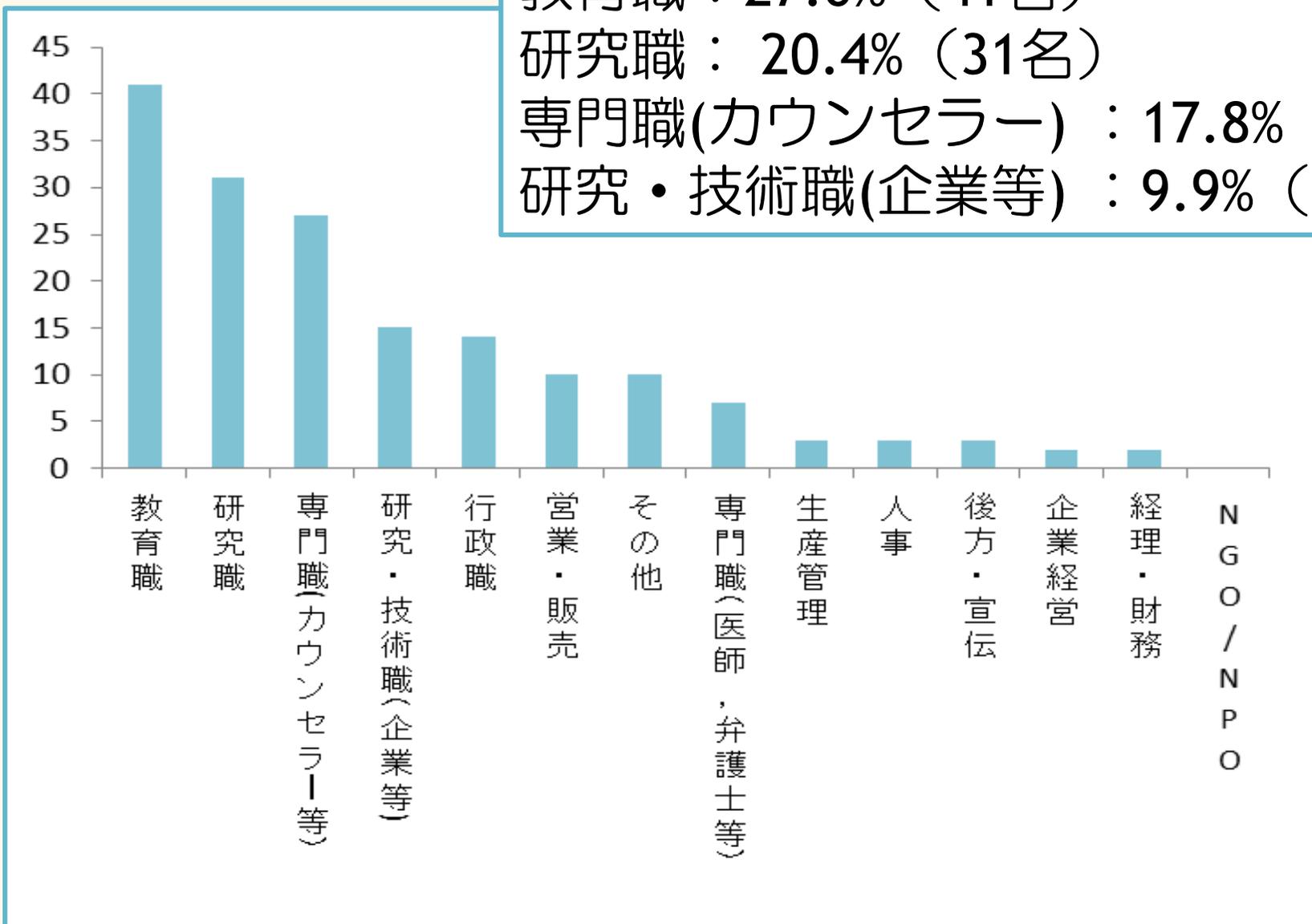
現在の仕事に関するキーワード（前期課程）



現在の仕事に関するキーワード (後期課程)



現在の仕事の職種



教育職：27.0%（41名）

研究職：20.4%（31名）

専門職(カウンセラー)：17.8%（27名）

研究・技術職(企業等)：9.9%（15名）

現代的諸問題に柔軟
に対応できる行動力

新しい課題を析出し
て行く資質・能力

人間の発達及び人間の発達を
支える環境に関わる深い学識

総合的かつ高度
な専門的学識

カリキュラム
ポリシー

ディプロマ
ポリシー

実践的に解決できる
専門的学識と実践能力

高度な研究を遂行し
ていくための基礎的
な資質・能力

研究を自立して
行う能力

あらたな研究課題や領域の
開拓へと活かす創造的能力

アドミッション
ポリシー

共同研究や学際研究を
企画・組織する能力

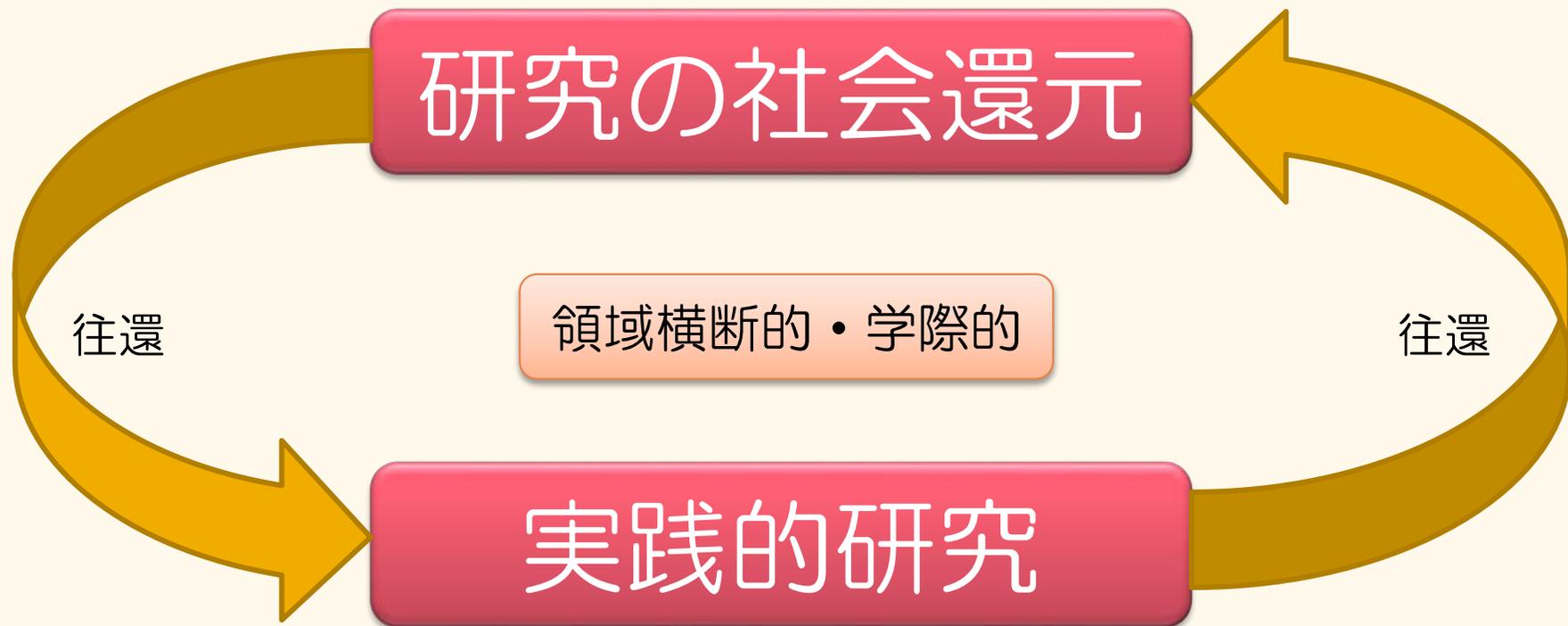
社会的活動・ 社会連携活動

人間発達環境学研究科

2017年11月6日

社会的活動

ヒューマン・コミュニティ創成研究における
社会的活動・社会連携活動の特徴



社会的活動

構成員が個人ベースで行う多様な社会的活動

自治体の
審議委員など

国の機関の
専門委員など

芸術・スポーツ
振興への関与

外部研究機関
への研究協力

外部機関での
カウンセリング

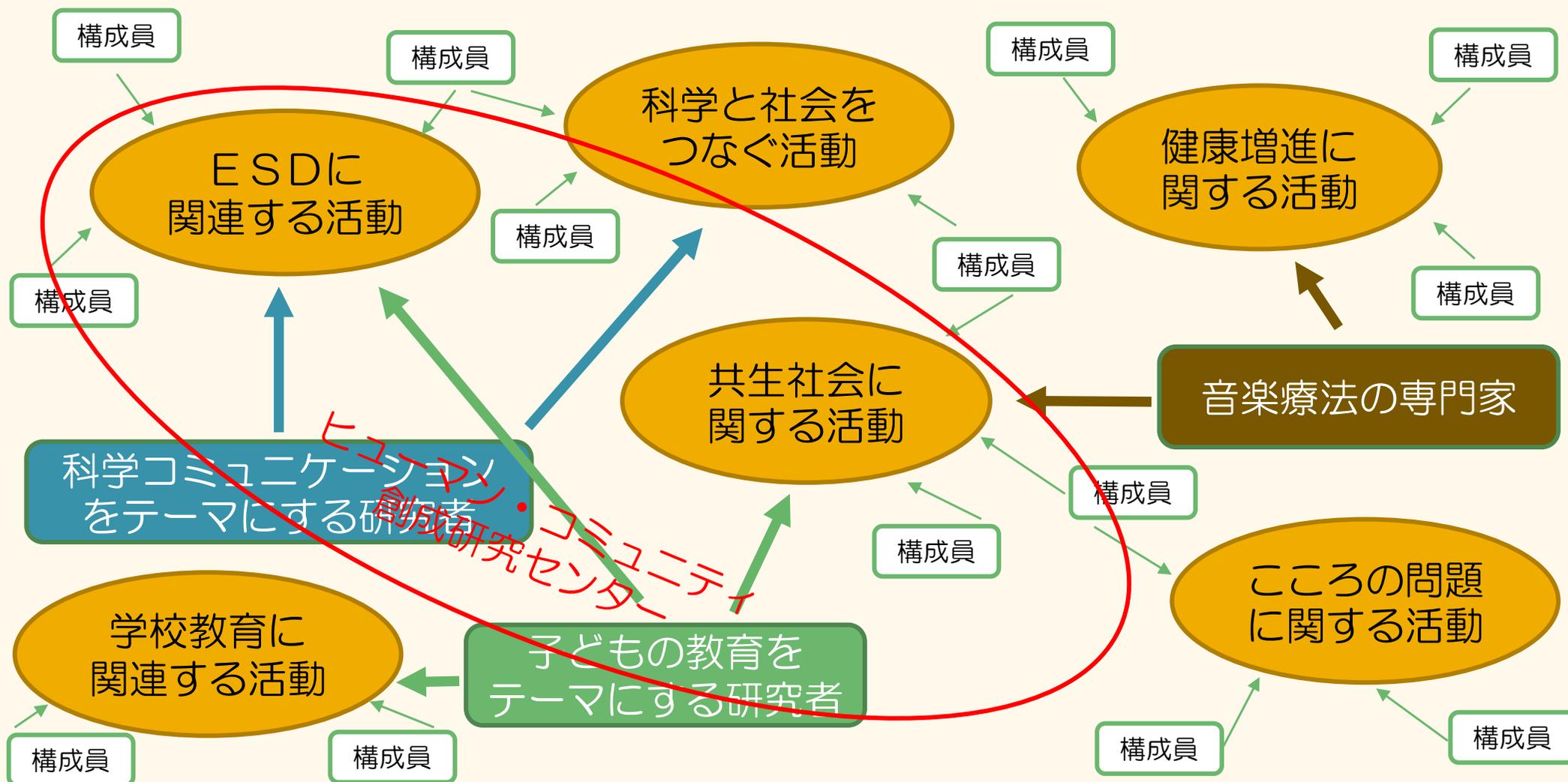
防災・
災害支援活動

組織的な活動へ

- ・メンタルケア関連の支援活動
- ・大船渡復興支援

社会的活動

構成員が行う社会的活動の組織化（イメージ）



社会的活動

発達支援インスティテュート

ヒューマンコミュニティー
創成研究センター

アクティブエイジング
研究センター

心理教育相談室

サイエンスシヨップ

教育連携推進室

サテライト施設「のびやかスペースあーち」

社会的活動

発達支援インスティテュート

伊藤篤 (2008) 「いのちを実感し親になることを考える体験学習」プロジェクト(Ⅰ～Ⅲ) 事業評価報告書 2007年度神戸市委託事業報告書 (Web公開 全143頁)

伊藤篤 (2009) 子育て支援「つどいの広場」における相談のあり方に関する一考察—大学サテライト施設における相談件数・相談内容の分析を通して— 心の危機と臨床の知 (甲南大学人間科学研究所報) 10 5-13

伊藤篤・寺村ゆかの (2010) 2009年度 高校生の赤ちゃんふれあい体験学習の実践内容とその効果 <部門報告書 No.3> 神戸大学大学院人間発達環境学研究所ヒューマン・コミュニティ創成研究センター子ども家庭支援部門 (Web公開 全31頁)

伊藤篤 (2012) 大学サテライト施設における切れ目のない子育て支援 子育て研究 (日本子育て学会編) 2 22-27

伊藤篤・川裕和子 (2014) 地域子育て支援拠点・ひろば型における早期ペアレンティング講座の意義—0歳児のママセミナー受講者の自由記述を手がかりにして— 神戸大学大学院人間発達環境学研究所研究紀要 7(2) 125-131

伊藤篤・塚本美由紀 (2015) 子育てひろばにおける青少年の発達性育成を目指した体験学習の意義—「0歳児ふれあい体験」と「赤ちゃん人形プログラム」の比較— 神戸大学大学院人間発達環境学研究所研究紀要 9(1) 57-71

神戸大学大学院人間発達環境学研究所ヒューマン・コミュニティ創成研究センター(2009)インクルーシブな社会を目指す実践 (Web公開 全109頁)

神戸大学大学院人間発達環境学研究所ヒューマン・コミュニティ創成研究センター (2011) インクルーシブな地域社会創成のための都市型中間施設

劉小波・梶原久直・中村美智子・江角彰・高橋真琴・盛敏・清水伸子・津田英二 (2011) インクルーシブな社会を目指す実践における葛藤の積極的な意味—自閉症児のストレス表出に対する他者の反応をめぐる考察— 神戸大学大学院人間発達環境学研究所研究紀要 4(2) 39-48

清水伸子・高橋真琴・津田英二 (2014) インクルーシブな社会をめざす実践におけるインフォーマルラーニングの重要性 神戸大学大学院人間発達環境学研究所研究紀要 8(1) pp.165-179

清水伸子・津田英二 (2007) インフォーマルな形態での福祉教育実践におけるデータに基づく評価組み形成モデル 日本福祉教育・ボランティア学習学会年報 12 94-115

高橋真琴 (2010) 発達障がいのある子どもたちへのインフォーマルな「居場所づくり」の取り組みについて LD研究 19(2) 157-166

寺見陽子・南憲治・松島京・及川裕子・寺村ゆかの・伊藤篤 (2016) 父親の養育性・役割取得を促す教育プログラムの視点に関する考察 神戸大学大学院人間発達環境学研究所研究紀要 9(2) ○-○

寺村ゆかの・伊藤篤 (2008) 妊娠前から出産後までの女性のエンパワメントを目指した実践的研究—妊娠・産後訪問・地域資源を利用したアウトリーチの試みを通して— 神戸大学大学院人間発達環境学研究所研究紀要 3(1) 115-123

寺村ゆかの・伊藤篤 (2010) 育て支援「つどいの広場」における相談のあり方に関する一考察 (Ⅱ) —大学サテライト施設における相談 (2007～2008年度) 分析を通して— 心の危機と臨床の知 (甲南大学人間科学研究所報) 11 71-78

寺村ゆかの・伊藤篤 (2011) 育て支援「つどいの広場」における相談のあり方に関する一考察 (Ⅲ) —大学サテライト施設でのアウトリーチ・サービス構築と相談実践・内容の整理— 心の危機と臨床の知 (甲南大学人間科学研究所報) 12 95-104

寺村ゆかの (2008) 活動情報② 大学と行政が協働したまちづくりの視点 子育て支援施設「のびやかスペース あーち」の取組 (兵庫県) We Learn 女性と学習・次世代育成情報誌 (財団法人・日本女性学習財団) 680 10-11

寺村ゆかの (2010) 早期からのドロップ・イン・サービス利用を促進させる一手法としてのペリネイタル・アウトリーチ・サービス 子ども家庭福祉学 9 71-78

寺村ゆかの (2012) 神戸大学サテライトで提供される地域子育て支援拠点事業の評価研究—利用者を対象とした匿名調査を通して— 神戸大学大学院人間発達環境学研究所研究紀要 5(2) 121-133

寺村ゆかの (2015) 子育てひろば新規利用者対象のコミュニケーションプログラムがプログラム参加者のエンパワメントに及ぼす影響 子育て研究 (日本子育て学会編) 5 9-20

津田英二 (2006a) 地域におけるインクルーシブな学び場づくりの可能性と課題 日本福祉教育・ボランティア学習学会年報 11 63-82

津田英二 (2006b) 支え合う人間 ヒューマン・コミュニティ創成研究センター編 人間像の発明 ドメス出版 267-320

津田英二 (2010) インクルーシブな社会をどう実現できるか 研究紀要 (兵庫県福祉協会) 11 29-43

津田英二 監修・神戸大学大学院人間発達環境学研究所ヒューマン・コミュニティ創成研究センター編 (2011) インクルーシブな社会をめざして かがわ出版

津田英二 (2012a) 「都市型中間施設」概念の可能性～インクルーシブな社会をめざす社会教育実践のために～ 生涯学習・社会教育研究ジャーナル 5 1-17

津田英二 (2012b) 「場のカ」を明らかにする 日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要 19 34-43

津田英二 (2012c) 物語としての発達/文化を介した教育 生活書院 (全301頁)

津田英二 (2014a) 語りが意味をもつ場の創出へ：障害の問題の社会的共有に向けて 年報・教育の境界 11 61-75

津田英二 (2014b) 地域の中で共に育つ・育てる環境をつくる ふくしと教育 17 16-19

津田英二・伊藤篤・寺村ゆかの・井手良徳 (2012) 「子育て支援を契機とした共生のまちづくり」実践の意義と課題—「のびやかスペースあーち」利用者調査単集からの考察— 神戸大学大学院人間発達環境学研究所研究紀要 5(2) 173-185

実践的研究例

アクティブエイジングセンターにおける「高齢者の身体システム機能維持・向上への学際的プロジェクト」

ヒューマン・コミュニティ創成研究センターのサテライト施設におけるアクションリサーチ (科研共同研究、モデル開発研究の展開)

のびやかスペースあーちにおける、
 主な実践的研究成果一覧

社会的活動

発達支援インスティテュート

組織間の協働プロジェクト例

神戸大学大学院心理教育相談室子育て支援セミナー2017

『夫婦のきずなと子どものこころ』

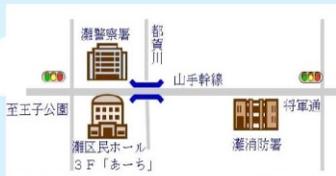
心理教育相談室の教員スタッフが、子どもや青年の心と子育ての悩みについて分かりやすくお話しします。子育て中の保護者の方のご参加をお待ちしています。

コース内容	日時
コース① 『発達障害のある子どもの育ちと夫婦の役割～気持ちの理解と調節を中心に～』	10月28日(土) 午前10時45分～12時15分
山根 隆宏 神戸大学大学院人間発達環境学研究所 准教授 臨床心理士	
コース② 『夫婦の成り立ちと発達～子どもから見た親夫婦、子どもにとっての結婚前の親との対話』	11月4日(土) 午前10時45分～12時15分
吉田 圭吾 神戸大学大学院人間発達環境学研究所 教授 臨床心理士	
コース③ 『イメージでつながる夫婦と子どものこころ』	11月25日(土) 午前10時45分～12時15分
伊藤 俊樹 神戸大学大学院人間発達環境学研究所 准教授 臨床心理士	
コース④ 『夫婦で支える思春期の備つきやすい子どもたち』	12月2日(土) 午前10時45分～12時15分
相澤 直樹 神戸大学大学院人間発達環境学研究所 准教授 臨床心理士	

※以上のコースからお好きなコースを選んで受講いただけます(複数選択も可)。

会場

神戸大学大学院人間発達環境学研究所
 HCセンター・サテライト施設
 「のびやかスペース・あーち」
 神戸市灘区岸地通1-1-1(灘区民ホール3F)



申し込み方法

Eメールにてお申し込みください。
 件名に「相談室セミナー・2017申込」とお書きの上、
 本文に参加者の氏名・年齢(学年)・性別・ご住所・
 電話番号・メールアドレス、ならびに**参加希望コース(複数可)**を明記の上、
 ku-advice@people.kobe-u.ac.jp
 (心理教育相談室事務局)までご送信ください。

※締め切りは10月23日(月)です。
 ※各コース定員25名(先着順)に達した時点で受付を終了いたします。

*お申し込みの数の個人情報は、本セミナーの運営資料の目的にのみ利用させていただきます。

お問い合わせ aizawa@kobe-u.ac.jp(セミナー担当)

参加
無料

ヒューマン・コミュニティ
 創成研究センターのサテラ
 イト施設「のびやかス
 ペースあーち」での、心理教育
 相談室主催のセミナー

ヒューマン・コミュニティ
 創成研究センターが事務局
 となっているRCEへの、
 サイエンスショップの参画

社会的活動

発達支援インスティテュート

ヒューマンコミュニティー
創成研究センター

アクティブエイジング
研究センター

心理教育相談室

サイエンスシヨップ

教育連携推進室

サテライト施設「のびやかスペースあーち」

社会的活動

発達支援インスティテュート

ヒューマン・コミュニ ティ創成研究センター

- 子ども・家庭支援
- ヘルスプロモーション
- 労働・成人教育支援
- 障害共生支援
- ジェンダー研究・学習支援
- ボランティア社会・学習支援

アクティブエイジング
研究センター

心理教育相談室

サイエンスシヨップ

社会貢献室

サテライト施設「あーち」

社会的活動

発達支援インスティテュート

ヒューマン・コミュニ ティ創成研究センター

- 子ども・家庭支援
- ヘルスプロモーション
- 労働・成人教育支援
- 障害共生支援
- ジェンダー研究・学習支援
- ボランティア社会・学習支援

アクティブエイジング
研究センター

心理教育相談室

サイエンスシヨップ

社会貢献室

サテライト施設「あーち」

発達支援インスティテュート

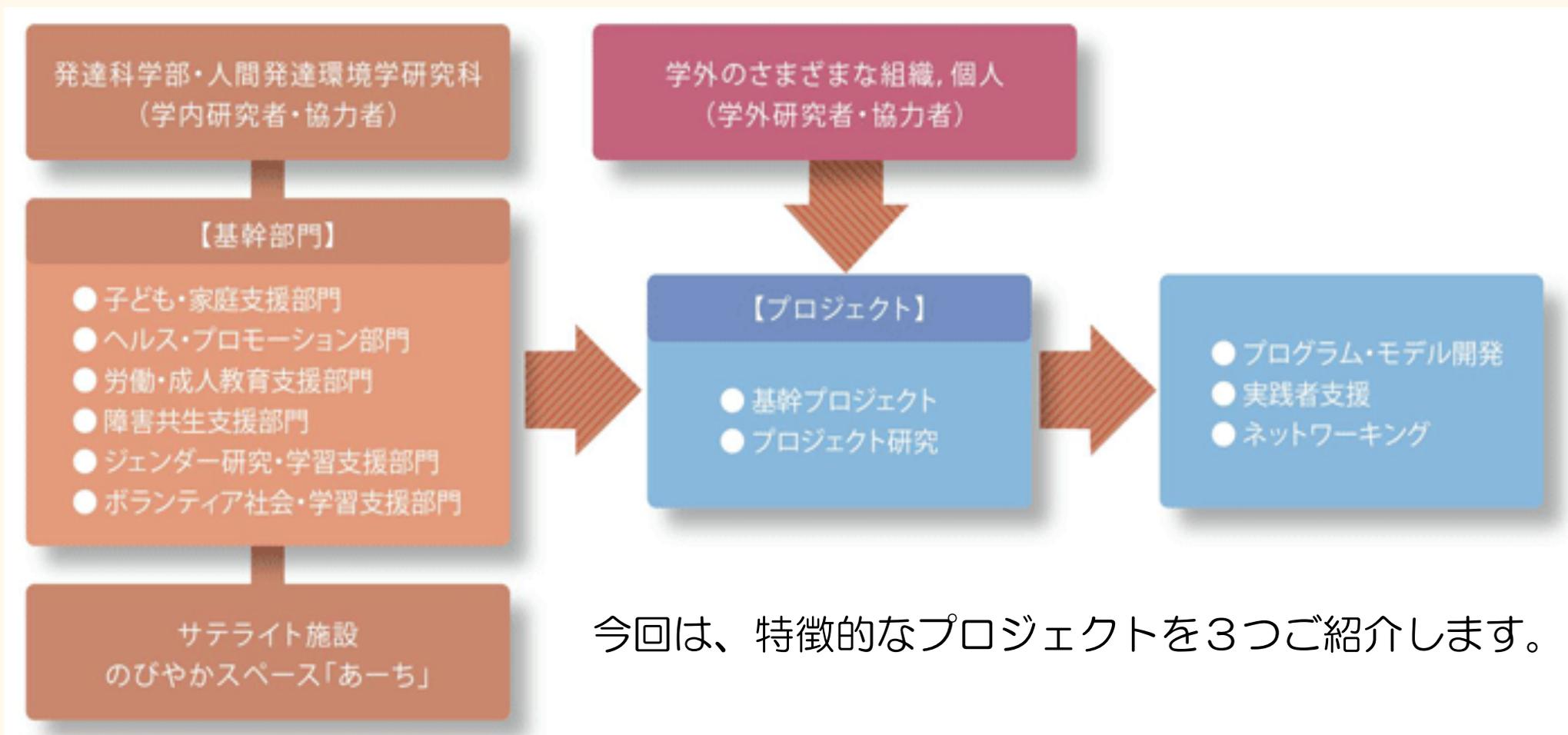
ヒューマン・コミュニティ
創成研究センターの活動

ヒューマン・コミュニティ創成研究センター（通称：HCセンター）は人間発達環境学研究科で蓄積されてきた研究成果と地域社会の実践活動とを融合させながら、現場に即したアクション・リサーチ（実験的研究）を行っています。



基幹部門と協働型プロジェクト

HCセンターの6つの基幹部門は、自律的にアクション・リサーチを行いながらも、相互に協力しながら、さまざまなプロジェクトを展開しています。



今回は、特徴的なプロジェクトを3つご紹介します。

のびやかスペースあーち



のびやかスペースあーち（通称：あーち）は、HCセンターのサテライト施設です。神戸市との協定により、2005年に旧灘区役所跡地に開設し、2017年に灘区民ホール内に移転しました。

研究科の教職員や学生が、住民、行政、民間非営利組織、企業等をステークホルダーとして、「子育て支援を契機とした共生のまちづくり」をめざす施設として、広く市民に受け入れられています。



「子育て支援を契機とした共生のまちづくり」実践の意義と課題
—「のびやかスペースあーち」利用実態調査単純集計からの考察（2）—

Meanings and Challenges of the Practice for Building an Inclusive Community through Child and Family Support: the second survey for the consumers of various services offered by a university satellite plant

伊藤 篤* 津田 英二* 寺村 ゆかの** 稲本 恵子***
Atsushi ITO* Eiji TSUDA* Yukano TERAMURA** Keiko INAMOTO***

Summary: This monograph is the results of simple tabulation and cross tabulation based on the complete enumeration conducted for all the service/program consumers of the satellite venue attached to Action Research Center for Human & Community Development, Graduate School of Human Development & Environment, Kobe University. The main objective of this satellite project is to build an inclusive community through practicing various initiatives for enhancing wellbeing of local families. When five years passed since the establishment of this plant, we once conducted a survey, and this is the second one taken just after the passage of ten years. Focused questions were the following: (1) Do the consumers really obtain what they initially asked for? (2) Why do the consumers start and/or quit using the venue? (3) How does the difference of using pattern relate to their learning and their satisfaction? (4) How much is the consumption useful to their improvement of life? (5) How does the consumption correlate to their social capital? The obtained results were discussed from the standpoints of realization of inclusiveness, life care, and support of parenting.

Key Words: 共生のまちづくり 地域子育て支援拠点事業 エンバワメント ライフ・キャリア

1. はじめに

本稿は、神戸大学大学院人間発達環境学研究所ヒューマン・コミュニティ創成研究センターのサテライト施設「のびやかスペースあーち」（以下、「あーち」と略記）の設立10周年の節目に実施した利用者対象の質問紙調査の結果をまとめたものである。設立5周年にも、同様の調査（寺村・井手2012）で、研究科の支援活動を生かす。この調査は、「あーち」の時点で、「あーち」が、また、その意義を明らかにするために実施した単純集計およびクロス・インタビュー調査に基き、分けて報告される。

なお、「あーち」のコンセプトは、既にいくつかの公刊物で紹介し検討しているため、ここではごく簡単に触れるだけに留めておく。また、「あーち」についての詳細な説明やコンセプトの考察等については、本文の末尾に、「あーち」に関連する文献をまとめて掲載しているため、それらを参照いただきたい。

* 神戸大学大学院人
** 神戸大学大学院人
*** 神戸大学大学院人



のびやかスペースあーちの実績

- 【受賞】兵庫県ユニバーサルまちづくり賞/神戸市市民福祉賞/神戸大学学長賞/ひょうご子育て応援賞
- 年間のべ約3万人超の利用者数
- 利用者の高い満足度と学習効果の両立（5周年・10周年利用者悉皆調査より）
- 学術論文の他、卒業論文、修士論文など、「あーち」をフィールドとした多数の研究実績
- 住民参加の地域拠点施設モデルとして学会や他の自治体からも注目



ESDプラットフォーム創成プロジェクト

ESD(持続可能な開発のための教育)を推進する目的で、多層多元的な関係組織(行政・企業・NPO等)の協働・連携を促進する事業を支援しています。

世界のESD推進拠点と連携しています。
 (国連大学認証組織RCE)

ESDスタディーツアープログラムを

HCセンター・サイエンスショップが
一体となって推進しています。

ESDツアープログラム: Home
 esd-tourprogram.org

ESD スタディーツアー
 Education for Sustainable Development

参加方法 スタディーツアーとは ESDとは ESD学び隊 ESD推進ネット
 ひょうご神戸

活動報告 専用掲示板

1 事業の内容 以下の親子、大学生向けの文化・環境事業の見学・聴講と補助を体験 ★明石・舞子に広がる明舞団地(1964年に団地開きをして人口ピークは昭和50年に約3万7000人。現在は約6割の2万人少しに減少。しかしまだ2万人を越え...[続きを読む](#))

2018年01月19日 15:45 ~ 17:45

2017年12月22日 15:45 ~ 17:45

2017年10月

月	火	水	木	金	土	日
25	26	27	28	29	30	1
バヌアツ写真 低学年: 児童	幼稚園での環 高学年: 児童	英語サイエン				
2	3	4	5	6	7	8
児童館の自然 低学年: 児童	幼稚園の秋の 低学年: 児童	高学年: 児童	おいしい防災 低学年: 児童	おいしい防災 【1】やさしい はいず: 外国	小学校のピオ	
9	10	11	12	13	14	15
ミャンマー関 低学年: 児童	高学年: 児童	明石の小学校	小学校3年生 【2】やさしい はいず: 外国			小学生との野 第一回神戸食
16	17	18	19	20	21	22
明石の小学校 低学年: 児童	高学年: 児童	おいしい防災 ひょうご環境	はいず: 外国		環境学習コーディネーター 第2回福田川 楽しく防災! 【3】やさしい 神戸YWCAL Taste the World	準用河川の保 たつの市 旧
23	24	25	26	27	28	29
低学年: 児童	高学年: 児童			いざという はいず: 外国		

福祉・健康・スポーツ 防災・減災・災害復興支援 自然保護・環境保全・科学
 異文化理解・国際交流・平和 経済開発・まちおこし 総合・まちづくり・文化

ESDプラットフォーム創成プロジェクト の実績

- RCE-ESD（ESD地域推進拠点）グローバル会議基調報告
- 日本社会教育学会、日本福祉教育・ボランティア学習学会等での研究発表、研究論文
- 各種メディア紹介
- 「ESD実践研究集会」の立ち上げ
- 卒業論文・修士論文・博士論文のフィールドワークの一部に。
- 協力団体の拡大：
13団体（2006年）
→56団体（2016年時点）



東日本大震災復興まちづくり支援

震災発生直後から、神戸と被災地をつなぐ支援とは何か、被災地にどのように寄り添うことができるか、ということの研究課題として、実践に取り組み始めました。

神戸大学生を中心にしたワークキャンプの継続実施

- 大船渡市赤崎地区での実施（2011年4月～2016年3月に計約90回、延べ800名参加）
- スタディツアープログラムとしての発展



2011年4月末からの救援ボランティア活動

神戸で展開する継続的支援

- 11円募金（2011年6月より毎月11月に実施）
- 神戸における震災支援ネットワークの形成



被災地のニーズに応える支援

- 赤崎復興市のプロデュース支援
- 赤崎復興隊の活動支援



探究している研究課題

- 外部ボランティアと被災地住民コミュニティとの関係が、まちづくりの活性化にどう影響を与えるか？
- ESD（持続可能な開発）が立ち現れるような活動プログラムとは？
- 住民の主体形成のベクトルにそった支援の在り方は？

外部資金の獲得

日本財団ROADプロジェクト、神戸大学基金、住友商事震災復興支援事業助成、震災復興支援・災害学習推進室助成金 科学研究費補助金

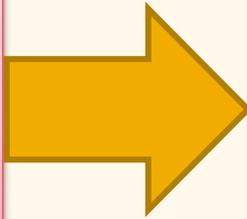
取り組みに対する外部からの評価

神戸大学学長表彰、紫陽会賞、神戸大学復興支援プラットフォーム及び神戸大学 震災復興支援・災害科学研究推進室との連携 各種マスメディア報道 学会招待講演等 大船渡市からの感謝状



2017年度の改変と今後

- 子ども・家庭支援
- ヘルスプロモーション
- 労働・成人教育支援
- 障害共生支援
- ジェンダー研究・学習支援
- ボランティア社会・学習支援



2017年4月より 3部門増設・組織改編

- 子ども・家庭支援
- 社会教育・サービスラーニング支援
- インクルーシヴ社会支援
- ジェンダー・コミュニティ支援
- ヘルスプロモーション・健康行動支援
- 自然共生地域支援
- 国際開発実践支援
- 社会保障・ソーシャルアクション支援

地域を基盤としたESD
実践研究の強化

社会的活動

発達支援インスティテュート

ヒューマンコミュニティー
創成研究センター

アクティブエイジング
研究センター

心理教育相談室

サイエンスシヨップ

教育連携推進室

サテライト施設「のびやかスペースあーち」

発達支援インスティテュート

心理教育相談室の活動

心理教育相談室の機能

心理教育相談室

```
graph TD; A[心理教育相談室] --- B[専門家養成]; A --- C[相談援助活動];
```

専門家養成

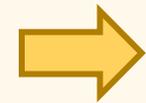
臨床心理士第1種指定
臨床心理学コース
臨床心理士養成

相談援助活動

地域住民に開かれた相談室
心理・教育相談
支援活動

心理教育相談室スタッフ

- 運営委員長、運営委員
- 相談室長、副相談室長
- 臨床心理学コース教員



臨床相談員

- 臨床心理学コース前期課程1年生
- 臨床心理学コース前期課程2年生



研修生

- 後期課程院生
- 事務補佐員

※心理教育相談室における研修生数

心理教育相談室の研修生数

年度	24	25	26	27	28
男	4	1	3	2	2
女	19	22	21	20	22
合計	23	23	24	22	24



コース修了後、臨床心理士資格を取得
福祉・医療・教育等、幅広い領域で活躍

※心理教育相談室におけるプレイルーム・面接室



プレイルーム (2室)

面接室 (3室)



※来談者の年代別内訳

○来談者の年代別内訳 (人)

区 分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
小学生以下	8	12	12	10	8
中学・高校生	16	16	12	10	10
大学生	0	4	4	2	5
成人・社会人	24	23	21	30	26
親	23(24)	28(21)	34(27)	27(20)	22(18)
総数	71	83	83	79	71

() 内は親子並行面接として、子どもと共に来談している人数を示している。



子ども、青年から成人（保護者）まで
幅広い年代層の相談者

※面接回数の内訳

○面接回数		(回)				
区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
受理面接	24	22	28	23	22	
教育相談面接	0	0	0	0	0	
遊戯面接	175	240	278	216	259	
心理教育面接	218	315	422	380	316	
臨床心理面接	555	436	407	462	356	
心理検査	0	0	0	0	0	
総数	972	1013	1135	1081	953	



臨床心理面接、プレイセラピー、遊戯面接、親面接を中心に年間1000回程度。

心理教育相談室における地域支援活動

相談室主催子育て支援セミナー

※HCセンターサテライト施設「あーち」にて子育て中の保護者を対象とする子育て支援セミナーを開催。

神戸大学大学院心理教育相談室子育て支援セミナー2016

『親の悩みと子どもの気持ち』

心理教育相談室の教員スタッフが、子どもや青年の心と子育ての悩みについて分かりやすくお話しします。子育て中の保護者の方々のご参加をお待ちしています。

コース内容	日時
コース① 『思春期の子どもの心理と親子関係～反抗と従順と衝動的な行為を巡って～』 吉田 圭吾 神戸大学大学院人間発達環境学研究所 教授 臨床心理士	11月15日(火) 午前10時45分～12時15分
コース② 『子どもの「にころ」とイメージ～イメージを通じて表現される』 伊藤 俊樹 神戸大学大学院人間発達環境学研究所 准教授	
コース③ 『乳幼児期の親子関係と心の絆 ～ベビースインでコミュニケーションの対話』 河崎 佳子 神戸大学大学院人間発達環境学研究所 教授	
コース④ 『思春期の子どもの傷つきやすさにより添う～子どもの心』 相澤 直樹 神戸大学大学院人間発達環境学研究所 准教授	

※以上のコースからお好きなコースを1～2コースまでお申し込みください。コース③はお子様とご一緒に参加いただけます。

会場

神戸大学大学院人間発達環境学研究所
HCセンター・サテライト施設
「のびやかスペース・あーち」
神戸市灘区神ノ木通3-6-18 (灘消防署2階)

神戸大学大学院心理教育相談室子育て支援セミナー2017

『夫婦のきずなと子どものこころ』

心理教育相談室の教員スタッフが、子どもや青年の心と子育ての悩みについて分かりやすくお話しします。子育て中の保護者の方々のご参加をお待ちしています。

コース内容	日時
コース① 『発達障害のある子どもの育ちと夫婦の役割～気持ちの理解と調節を中心に～』 山根 隆宏 神戸大学大学院人間発達環境学研究所 准教授 臨床心理士	10月28日(土) 午前10時45分～12時15分
コース② 『夫婦の成り立ちと発達～子どもから見た親夫婦、子どもにとっての結婚前の親との対話』 吉田 圭吾 神戸大学大学院人間発達環境学研究所 教授 臨床心理士	11月4日(土) 午前10時45分～12時15分
コース③ 『イメージでつながる夫婦と子どものこころ』 伊藤 俊樹 神戸大学大学院人間発達環境学研究所 准教授 臨床心理士	11月25日(土) 午前10時45分～12時15分
コース④ 『夫婦で支える思春期の傷つきやすい子どもたち』 相澤 直樹 神戸大学大学院人間発達環境学研究所 准教授 臨床心理士	12月2日(土) 午前10時45分～12時15分

※以上のコースからお好きなコースを選んで受講いただけます(複数選択も可)。

申し込み方法

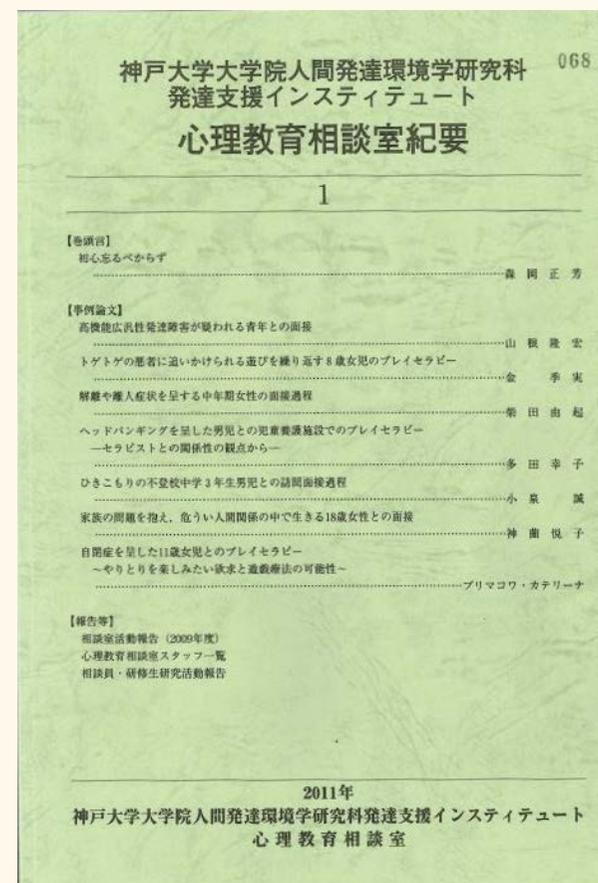
Eメールにてお申し込みください。
件名に「相談室セミナー2017申込」とお書きの上、本文に参加者の氏名・年齢(学年)・性別・ご住所・電話番号・メールアドレス、ならびに参加希望コース(複数可)を明記の上、
ku-advice@people.kobe-u.ac.jp
(心理教育相談室事務局)までご連絡ください。
※締め切りは10月23日(月)です。
※各コース定員25名(先着順)に達した時点で受付を終了いたします。
*お申し込みの際の個人情報、本セミナーの運営管理の目的にのみ利用させていただきます。
お問い合わせ aizawa@kobe-u.ac.jp(セミナー担当)

会場

神戸大学大学院人間発達環境学研究所
HCセンター・サテライト施設
「のびやかスペース・あーち」
神戸市灘区岸地通1-1-1 (灘区民ホール3F)

※ 『心理教育相談室紀要』の発刊

- 事例研究論文を中心とする研究報告の創出
- その他相談室の社会貢献、研究活動の報告
- 平成22年より年1巻発行



※臨床相談員（教員）の研究活動の展開

- 自死遺族支援に関する研究、児童の問題行動への対処研究、スクールカウンセリング
- 聴覚障害児・者への心理支援に関する研究、乳児院・児童養護施設でのプレイセラピーに関する研究
- 芸術療法、表現療法に関する研究、投影法に関する研究
- 社会不安、引きこもり支援に関する研究、心理検査法に関する研究
- 発達障害児・者の家族支援に関する研究



※相談室研究「発達支援と心理臨床の有機的連環」

- 相談室実習の貢献度を評価
- 相談支援活動の社会的評価
- 現代的要請にこたえる実習システムの構築



一部の研究は、**科研費・学内研究経費等、研究資金の獲得**



社会的活動

発達支援インスティテュート

ヒューマンコミュニティー
創成研究センター

アクティブエイジング
研究センター

心理教育相談室

サイエンスシヨップ

教育連携推進室

サテライト施設「のびやかスペースあーち」

発達支援インスティテュート

サイエンスショップの活動

背景と理念

- 科学・技術の発展への市民の関与・参画の重要性
Public Engagement in Science
- 環境問題等，市民社会の課題解決への科学の活用
Science for Citizens
- 科学者の参画・支援による 地域における科学教育
の発展の可能性

目的

- 市民と科学者の対話の場の創成
- 社会的課題解決に向けた市民と科学者の協働の
コーディネート
- 地域の科学教育への支援

神戸大学サイエンスショップの取り組み

- 社会における市民の科学活動支援
 - サイエンスカフェの運営と展開
 - 市民による環境保全等の活動支援
- 地域科学教育への支援と理系人材養成の取組
 - 高等学校等の課題研究活動への指導・助言，研究発表会の開催
 - 小学生を対象とした実験教室，天体観望会等の開催
 - 科学分野で優れた高校生の育成プログラム（グローバルサイエンスキャンパス）
- 科学技術政策への市民の参画を促すための研究開発プロジェクトの実施
 - PESTI（科学技術政策への幅広い国民の関与のためのフレームワーク開発）
 - Future Earth（持続可能な地球社会のための国際的研究推進イニシアチブ）
- 学部・大学院教育と教育研究
 - 地域社会での実践を通じた学びのフィールド（ESD，科学コミュニケーション等）

市民と科学者の対話の場としての サイエンスカフェの開催

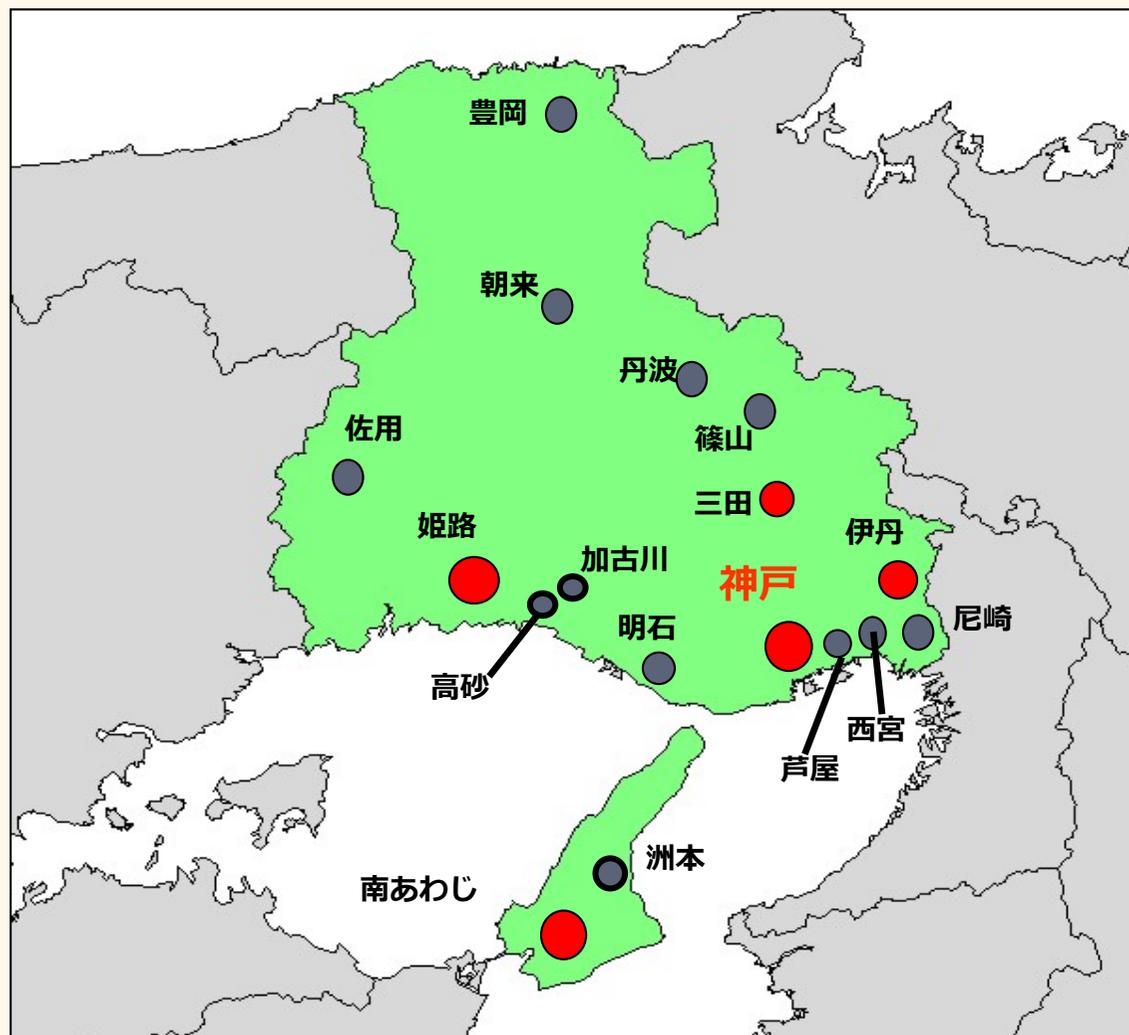


多様なトピックス：
環境，先端医療、宇宙
生命科学，地球科学
防災，食の安全，VR
ロボット，人工知能・・・

神戸市三宮で開催した英語によるサイエンスカフェ
(冥王星探査機 New Horizons の成果について)

社会における市民の科学活動支援 サイエンスカフェの展開

神戸での開催から 兵庫県各地への展開
⇒ いくつかの地域で市民グループによる
サイエンスカフェの企画・運営へ



- 地域の市民グループなどが主体のサイエンスカフェが立ち上がった地域
- サイエンスカフェの開催実績がある地域

平成28年度
サイエンスカフェ開催
支援件数： 21件

千種川流域圏の 市民グループによる生態系保全活動への支援

- 環境DNA技術によるオオサンショウウオの生息状況調査
- 溶存イオン・同位体分析等による水環境調査
(総合地球環境学研究所等との連携)
- 環境教育・科学教育活動への協力



科学コミュニケーション活動の 実績を活かした研究開発への参画・協力

- 科学技術振興機構（JST）／社会技術研究開発センター（RISTEX）
「科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プロジェクト」
「STIに向けた政策プロセスへの関心層別関与フレーム設計」
（H.24-27年度）（代表：加納 圭 滋賀大学／京都大学）

科学技術政策の形成過程のへより幅広い市民の参画を
促すための手法の開発・場づくり

- 科学技術振興機構（JST）／社会技術研究開発センター（RISTEX）
「フューチャー・アース構想の推進事業」委託研究
**「日本が取り組むべき国際的優先テーマの抽出及び研究開発
のデザインに関する調査研究」**（H.26-28年度）
（代表：谷口真人 総合地球環境学研究所）

持続可能な地球社会に向けた，市民，行政，研究者，産業界など
幅広いステークホルダーの参画による優先研究課題の設定と手法開発

地域の科学教育への支援

- 科学技術振興機構（JST）次世代人材育成事業
「グローバルサイエンスキャンパス」

「根源を問い革新を生む 国際的科学技術人材 育成挑戦

プログラム」（H.29-32年度）（実施責任者：武田 廣 神戸大学学長）

科学技術分野で優れた資質を持つ高校生等を発掘し、将来国際的に活躍できる人材へと育成

（サイエンスショップが企画・運営の中核的役割を果たす）

- 兵庫県を中心とした高等学校の課題研究・探求的活動への支援

SSH運営指導委員，SSHネットワーク組織顧問，

人材育成に向けたフォーラムの開催、高校生科学研究発表会の開催、
英語による研究発表・交流会の共催
ほか

論文発表等

- 「市民による科学情報 読み解きへの支援：『IPCCレポートを根掘り葉掘り読む会』」 (蛭名 他, 2016)
 - 「環境DNA手法による高校生研究活動への支援」 (源 他, 2016)
 - 「千種川の水環境に関する共同研究プロジェクトの予察的報告」 (大串 他, 2016)
 - 「科学コミュニケーションの現状と課題：実践者の立場から」 (伊藤, 2014)
 - 「パブリックコメント・ワークショップの試行：『宇宙基本計画(案)』をテーマとしたワークショップの事例報告」 (水町 他, 2014)
- ほか

受賞

- 科学教育実践賞 日本科学教育学会 2016年度
(受賞対象：科学教育を含む「サイエンスショップ」の新たなモデル構築とそれを通じた地域の科学教育への支援)

社会的活動

発達支援インスティテュート

ヒューマンコミュニティー
創成研究センター

アクティブエイジング
研究センター

心理教育相談室

サイエンスシヨップ

教育連携推進室

サテライト施設「のびやかスペースあーち」

発達支援インスティテュート

アクティブエイジング 研究センターの活動

アクティブエイジング研究センター

- 設立 (2015年12月1日)

運営委員会15名の教員+プロジェクトメンバー, 研究員1名, 事務員1名

社会心理学、老年行動学、加齢の身体運動科学、応用生理学、スポーツ
プロモーション、生活空間計画、発達心理学、衣環境学、高齢者心理学、
環境システム工学、身体システム学、応用生理学、睡眠心理学、音楽療
法、環境バイオテクノロジー

- 目的

1) アクティブエイジングを掲げ、産学官民で共同して高齢化
社会の問題解決を目指す学際的センター。

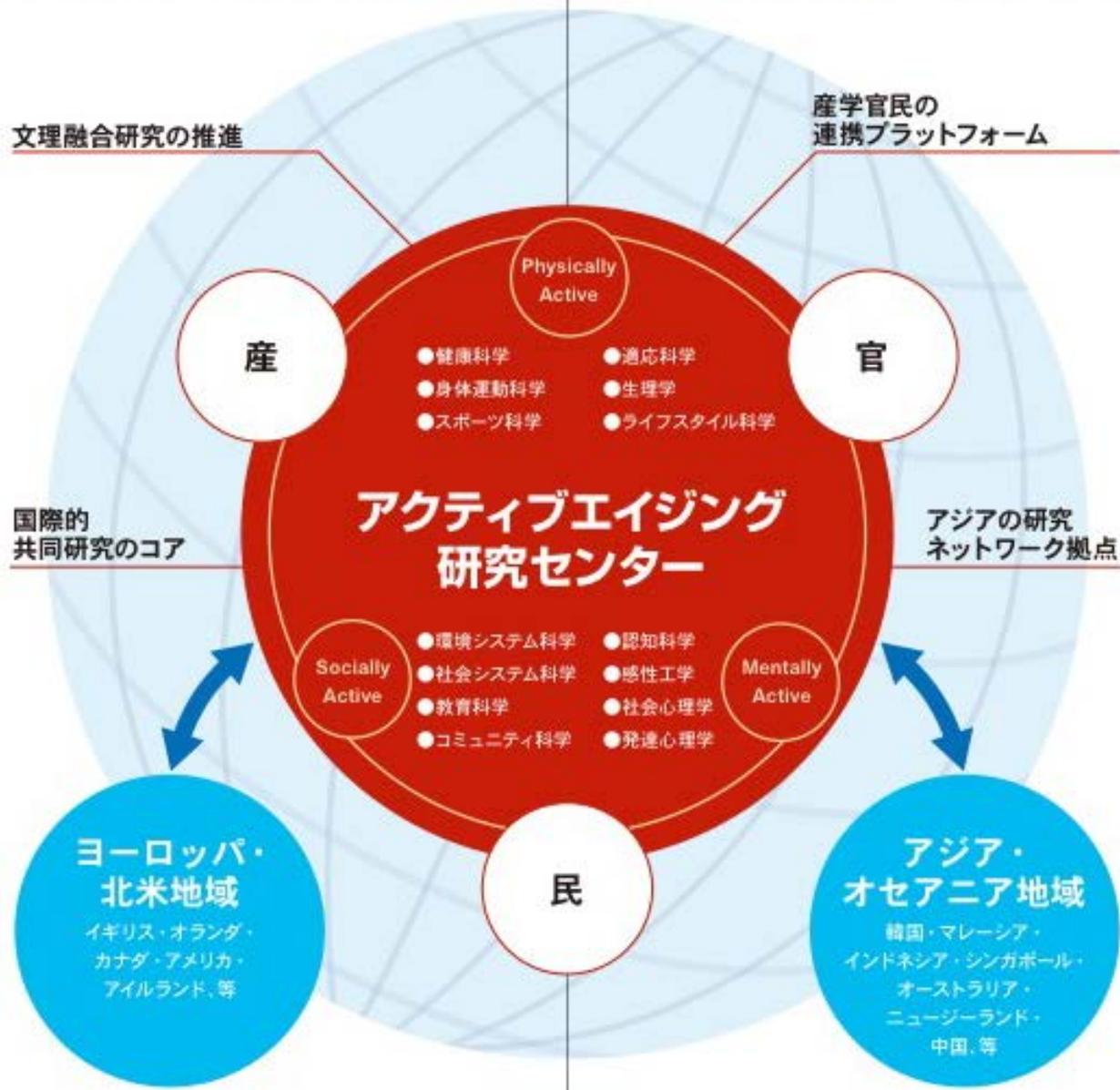
2) アジアの振興国や発展途上国にも進行している高齢化の課
題解決に貢献できる, アクティブエイジング研究のアジア拠点
(Hub)を目指す。

- 研究活動

プロジェクトベースでの研究活動

アクティブエイジング研究センター

加齢に伴う諸課題を産学官民から解決するために。



センターの目標と主要事業

センターは、高齢化の進行に伴う課題の解決に資するためのアクティブエイジングに関わる先端的研究を創発し、本研究分野の活性化と社会的還元を目指していくことを設立時の目標として掲げ、その達成に向けて以下の主要事業を展開します。

1. 研究開発事業

●リーディング研究プロジェクトの実施と拡大 ●新規シーズ研究プロジェクトの地産支援 ●国際共同研究プロジェクトの計画化と地産 ●民間・行政委託研究の受託 ●大型競争研究資金獲得によるプロジェクト研究創出

2. 研究発信事業

●センター主催研究シンポジウムの開催 ●関連学会における研究成果の発表 ●WEB-デジタル・マスメディアを通じた研究成果発信 ●研究論文・書籍出版 ●アクティブエイジング関連政策・施策への提言

3. 研究支援事業

●研究コンサルティングの受託と政策提言 ●アクティブエイジング研究者育成 ●関連国際・アジア学会の招致 ●関連国内学会の共催・後援・協力 ●アジアアクティブエイジング学会(仮称)事務局設立

4. 研究ネットワーク事業

●国内外の大学・研究団体研究者の招聘・連携 ●国内外の関連研究センター・推進機関との連携 ●民間・行政セクターからのセンター研究員 ●産官民学コンソーシアムによる研究会開催 ●研究情報ネットワークによる研究成果の共有化

研究ハブ(結節)拠点形成に向けて

センターの目標と主要事業を展開するためのプラットフォームとして、以下の学際性、国際性、職際性をテーマとする研究ハブ拠点機能を向上させ、先駆的な研究を創発し発信していくための結節点としてセンターの活性化を図ります。

1. 学際的研究ハブ拠点

●アクティブエイジングを個人から文化レベルまでの多面的・総合的現象の中で捉え、横断的視座と科学を結節した新たな基礎研究・応用研究を創発する

2. 国際的研究ハブ拠点

●高齢化というグローバルな課題に対する世界的視野からの研究推進と社会還元を目指し、特にアジアの視点から世界に向けてアジア創発研究を発信する

3. 職際的研究ハブ拠点

●産官民学の垣根を超えて共同研究を促進し、研究活動を活性化させる結節点として、課題解決に貢献する研究成果の社会的還元を加速化させる

プロジェクト

1. 鶴甲いきいきまちづくり-アクティブエイジングを目指して
2. 男女の違いや個人差を考慮した健康増進支援プロジェクト
3. 高齢者の身体システム機能維持・向上への学際的プロジェクト
4. 超高齢化社会を見据えた持続可能なごみ処理施策の提案
5. 高齢期の意思決定バイアスの解明と自律に向けた生涯学習プログラムの開発
6. 住民ネットワーク形成の客観的検証方法の確立
7. 都市居住高齢者の日常活動の国際比較
8. サードエイジ・プロジェクト
9. 異世代間交流のプロジェクト
10. マスターズ甲子園によるアクティブエイジング活性化の検証
11. 関西ワールドマスターズゲームズ2021レガシー創造支援研究
12. 超高齢社会における複数住宅所有の実態と役割
13. 活動的な生活習慣と健康増進プロジェクト

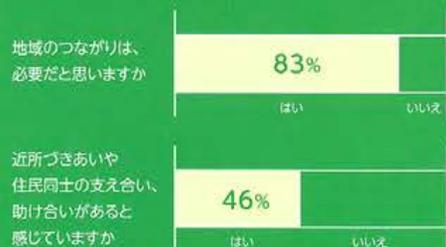
特筆すべきプロジェクト

鶴甲いきいきまちづくりプロジェクトのねらい

地域と大学のチカラを融合 すこやかに、安心して 生活できるまちづくりを

高齢化が進む中、さまざまな世代がすこやかに、安全に暮らせるまちづくりを行うことは急務です。六甲山系の中腹にあり、人口約5100人の神戸市灘区鶴甲地区は、その31.7%が65歳以上。住民アンケートの結果、「隣近所とのつきあいが少ない」「世代間交流が少ない」「災害時の安全性が不安」などの問題点が浮かび上がり、「健康志向が高い」「趣味や学習の場を求めている」こと、大学と連携した活動を望む声が多いことも明らかになりました。そこで誕生したのが「鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト」。地域と大学のチカラをいかし、心身共にすこやかで、より安全に暮らせるまちづくりをめざす取り組みを実践しています。

<アンケート>



つながりは大切 — なのに 交流が少ない

いきいきと安心して暮らせる明日を、共に



鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト

くわしくは、Webサイトでチェック!

鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト

検索



アクティブ・エイジング(鶴甲いきいきまちづくり)プロジェクト運営

岡田修一(副研究科長)・近藤徳彦・長ヶ原誠・片桐恵子・増本康平・岡田肇宏(研究科長)・朴木佳緒留(前研究科長)
 神戸大学大学院人間発達環境学研究科/
 神戸大学発達科学部
 "アクティブ・エイジング"プロジェクト室
 〒657-8501 神戸市灘区鶴甲3-11

報告リーフレット企画・制作
 増本康平・片桐恵子・岡田修一

研究助成

日本学術振興会「平成24-平成26年度科学研究費補助金基盤研究(A)」
 平成25年度・平成27年度神戸市灘区
 「大学と連携したまちづくりチャレンジ事業」

本プロジェクトは、神戸市灘区役所、鶴甲連合自治会、住民サポーターのみなさんのご協力のもと、実施しています。心より感謝いたします。

神戸大学
 アクティブ・エイジング
 プロジェクト



つる かぶと

鶴甲
 いきいき
 まちづくり
 プロジェクト

特筆すべきプロジェクト

1 実践：タウンミーティング

地域の方々のリアルな声を これからの暮らしに役立てる

2012年に行ったアンケートから、人のつながり、防災・避難方法、健康についてなど…地域の課題や住民の方々の関心事が明らかに。住民、行政、大学間で意見を交換するために、タウンミーティングを4回開催しました。この取り組みがきっかけとなり、2014年には、神戸大学発達科学部の体育館が災害時の「指定収容避難所」に。住民の方々と共に地域の課題を解決していく、新たな道筋が生まれました。



第1回 2013年3月23日(土)

住民アンケート結果から
「衣・食・住」について考える・意見交換会

第2回 2013年6月16日(日)

住民アンケート結果から
「防災とメンタルケア」について考える・意見交換会

第3回 2013年8月4日(日)

住民アンケート結果から
「地域における人と人とのつながり」について考える・意見交換会

第4回 2014年11月30日(日)

鶴甲での地域避難
～必要性・避難の方法・避難先～意見交換会

2 実践：アカデミック・サロン

学びと実践、活躍の場を創造 住民主体のネットワークづくりを支援

タウンミーティングで集められた住民の方々の意見をふまえ、2013年からは大学が持つ「ひと・空間・専門性」をいかした地域交流の場としてアカデミック・サロンを開講。2015年6月までにのべ1000人以上が参加し、避難訓練、園芸教室、芸術フェスタ、健康教室、鶴甲1000人ラジオ体操、ひと味違うお月見大会など…合計20以上のバラエティ豊かなプログラムが行われました。



第4回 芸術フェスタ



第11回 鶴甲1000人ラジオ体操



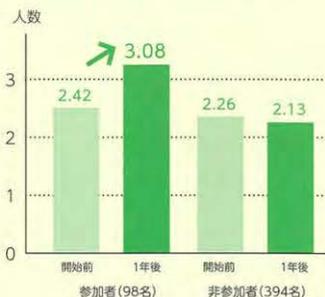
第14回 大学でひと味違うお月見会



連続教室：園芸教室「野菜や草花を育ててみよう」

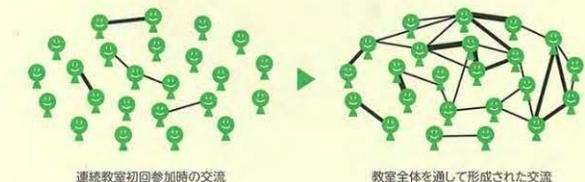
アカデミック・サロン開催による変化は？

アカデミック・サロンの効果を検証するため、開始前と開始1年後にアンケート調査を実施。アカデミック・サロン参加者に、近隣の方々との交際量(助け合えるご近所さんの数や訪問しあう人数)などの項目で、統計的に意味のある増加が認められました。



徐々にコミュニケーションが生まれ、活発化

連続講座のアカデミック・サロンでは、参加者の交流を客観的に計測。初回時はそれほど交流が見られませんでした。回を重ねるごとに活発に。最終的には、参加者全員に他の参加者との交流がうまれました。



2013年	
第1回	11月17日(日) 開講式
第2回	12月8日(日) 健康ふれあいフェア
第3回	12月15日(日) ヒッグス粒子について
2014年	
第4回	2月16日(日) 芸術フェスタ「ブラームスは大好き」
第5回	3月2日(日) 「振り込め詐欺」あなたは大丈夫?
第6回	3月16日(日) 短い昼寝と軽い運動でぐっすりねむろう!
第7回	5月25日(日) 現在の子育て事情～お孫さんへのまなざしとサポート～
第8回	6月22日(日) めざせ、いつまでも現役 たのしい!!かんたん!!健康教室
第9回	6月29日(日) ～神戸大学大学院生企画～KOBEO鶴甲いきいき交流会
第10回	7月6日(日) たった3分でも効果抜群!!正しいラジオ体操を学ぼう
第11回	7月20日(日) 鶴甲1000人ラジオ体操
第12回	7月26日(土) めざせ、いつまでも現役 たのしい!!かんたん!!健康教室
第13回	8月3日(日) 毎日歩いて健康になろう 鶴甲ウォーキングMAP作り
第14回	9月8日(月) みんなでたのしもう! 大学でひと味違う お月見会
2015年	
第15回	2月21日(土) 鶴甲体操(鶴甲わくわく健康運動)お披露目会
第16回	2月28日(土) 芸術フェスタ2015 シューベルトはお好き
第17回	6月28日(日) ～神戸大学大学院生企画～みんなで楽しもう!新しい遊び
連続講座	
第1弾	2014年5月24日(土)6月14日(土)7月5日(土) 園芸教室「野菜や草花を育ててみよう」
第2弾	2014年9月27日(土)10月25日(土)11月15日(土)12月13日(土) 秋の園芸教室 野菜や草花を育ててみよう
第3弾	2014年10月11日(土)10月18日(土)11月8日(土)11月15日(土) めざせ、いつまでも現役 たのしい!!かんたん!!健康教室
第4弾	2015年5月23日(土)6月20日(土)7月4日(土) 園芸教室-野菜や草花を育ててみよう-
第1回	2014年11月30日(日) 防災避難訓練

20回以上の
 サロンを開催!
 のべ1000人以上の
 方々が参加!

1. 成果

1) プロジェクト研究

- ・成果公表（論文等20編以上，学会発表30編以上）
- ・プロジェクトの拡大（9→13）

2) 共同研究推進

- ・スマートシティプロジェクト（神戸市・神戸大学）
- ・アクティブエイジングをIT人工知能により支援強化するプロジェクト
- ・認知症予防プロジェクト（神戸大学）

3) 研究資金

- ・科学研究費（8件），その他（7件）
- ・H28健康寿命延伸産業創出推進事業（経産省）

2. 課題

- 1) 他領域との更なる共同：学内・学外研究員
- 2) KAARbサロンの運営
- 3) アジア地域との連携（韓国の大学との協定）
- 4) ポストドク等



KAARb とは？

人 口の高齢化は人類が成し遂げた成果であるとともに、最大の社会的課題の一つでもある。日本においては、後期高齢者の増加に伴う要介護者・要支援者・軽度認知障害を持つ人の増加、都市化・核家族化による高齢単身世帯の増加などに伴い、介護・医療費の高騰が大きな問題となっている。1999年、世界保健機関(WHO)が掲げた「アクティブエイジング(活力ある高齢化)」は、この課題解決に向けた指針として注目される。これは、高齢者を虚弱で非生産的な社会的弱者とみる従来の固定観念を打破し、高齢期をより活動的、積極的、可能性のあるライフステージとして捉えながら、加齢を個人の生涯にわたる発達と成熟の過程と認識する意識変革を目指し、その実現に向けて社会的アクションを活性化していくことを目標とするものである。このWHOの指針は日本での高齢化における諸課題の解決策の決め手になると考えられる。

本 研究科には、アクティブエイジングを精神的、身体的、社会的側面から総合的に捉え包括的な活性化を追求する応用的・実践的研究と、そのベースとなる諸科学(健康科学、心理学、行動科学、社会科学、環境科学、教育科学など)からの研究実績が蓄積されてきた。

ア クティブエイジング研究センターは、これらの学問的営為を結集し、先駆的な研究プロジェクトを生み出していく創発点として、活力ある高齢化への様々な可能性を究明し、支援策のグローバルな提案を含め積極的な社会実装を図る。

アクティブエイジング研究センター 神戸大学大学院 人間発達環境学研究所

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲3-11
神戸大学大学院 人間発達環境学研究所
アクティブエイジングプロジェクト室(A棟1階 A118)
Tel & Fax.078-803-7963
Mail: kaarb@h.kobe-u.ac.jp

KAARb
Kobe Active Aging Research Hub
The Graduate School of Human Development and Environment,
Kobe University

アクティブエイジング研究センター
神戸大学大学院 人間発達環境学研究所

社会的活動

発達支援インスティテュート

ヒューマンコミュニティー
創成研究センター

アクティブエイジング
研究センター

心理教育相談室

サイエンスシヨップ

教育連携推進室

サテライト施設「のびやかスペースあーち」

発達支援インスティテュート

教育連携推進室の活動

教育連携推進室

- 2015年12月に設置
- 高等学校をはじめ小学校，中学校，特別支援学校，教育委員会等と協力し，高大連携事業を推進するとともに，中等教育に対する支援及び学校教育・社会教育における連携事業への協力を行います。
- 教育連携部門，研究開発部門，拠点形成部門の3つより構成されています。
- 現在，まだ開設されて，2年程度なので大きな取り組みはありません。例を挙げれば，研究開発部門による**高度教員養成プログラム**，教育連携部門による神戸市教育委員会と共同した「**教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業**」（独立行政法人教職員支援機構）などがあります。

高度教員養成プログラム

- 正課外の特別セミナー
- 教育実践現場での研究的なフィールドワーク（修士論文）
- 学術研究としての成果の発信

<https://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/node/3918>

プロジェクト

代表分

- 基盤研究 (B) (一般) 「トランス・サイエンス問題の解決に資する知識共創型アーギュメンテーションの教師教育」代表：坂本美紀
- 基盤研究 (B) (一般) 「知識構築型アーギュメンテーションの指導と評価を可能にする教師教育プログラムの開発」代表：稲垣成哲
- 基盤研究 (B) (海外学術調査) 「学習科学を応用したイノベーター的な教育の理論と方法に関する国際調査研究」代表・山口悦司
- 基盤研究 (B) (一般) 「後期中等・高等教育における「無償教育の漸進的導入」の原理と具体策に係る総合的研究」代表・渡部昭男
- 基盤研究 (C) (一般) 「新教育運動における「国際化」の進展と「郷土」形成論の相克に関する比較史的研究」代表：渡邊隆信
- 基盤研究 (C) (一般) 「空間的实践とエスニシティからみた在日インド人と在日ネパール人ー戦術から戦略へ」代表・澤宗則
- 挑戦的萌芽研究 「科学系博物館における情報アクセシビリティ・ガイドラインと実践モデルの提案」代表：稲垣成哲
- 挑戦的萌芽研究 「大量退職時代における熟練教師から初任者教師への理科授業実践知識・技能の伝承モデル」代表・山口悦司

プロジェクト

分担

- 基盤研究（A）（一般）「幼年期における科学的素養醸成のための科学コミュニケーションに関する学際的研究」代表：野上智行（神戸大学）
- 基盤研究（A）（一般）「持続的な学びを支える学習科学ポータルサイトの開発と評価」代表：白水始（国立教育政策研究所）
- 基盤研究（B）（一般）「ユニバーサルデザインに基づいた聴覚障害者のためのデジタル人形劇の開発と実践」代表・楠房子（多摩美術大学）
- 基盤研究（B）（一般）「政治的抑圧からの回復期におけるアジアの子どもの身体・文化・生活の相互変容研究」代表：佐川哲也（金沢大学）
- 基盤研究（B）（海外学術調査）「教育行政専門職の養成、研修に関する比較研究—システムとカリキュラム・方法を中心に—」代表・日渡円
- 基盤研究（C）（一般）「近代日本準専門職形成史の研究:キャリアコース・試験情報・専門性向上言説を中心に」代表・菅原亮芳（高崎商科大学）
- 基盤研究（B）（一般）「携帯端末を用いた実世界協調センシングによる創造的学習支援環境の構築と評価」代表・杉本雅則（北海道大学）
- 基盤研究（B）（一般）「人物計測技術により没入感演出と注意推定，評価定量化とを図る博物館学習支援システム」代表・溝口博（東京理科大学）
- 基盤研究（B）（一般）「里山植生遷移ゲームと野外体験を統合した環境学習プログラムの開発」代表：武田義明（神戸大学）13,600千円
- 挑戦的萌芽研究「21世紀型スキルとしての認識論的コンピテンシを育む協調学習環境の研究開発」代表：望月俊男（専修大学）2,600千円
- 挑戦的萌芽研究「アクティブシニアによるICTを活用した社会貢献および学習共同体の形成モデル」代表・竹中真希子

教育連携推進室

- 課題

- 大学院の教育・研究との連携
- 社会的活動・社会連携活動なのか

- 展望

- 社会的活動・社会連携活動からの脱却
- 外部資金の獲得による学際的・領域横断的研究の強化